

水災への備えに関する意識調査 報告書

2025年12月
一般社団法人 日本損害保険協会

INDEX

調査概要	… 03
回答者プロフィール	… 06
サマリー	… 10
調査結果詳細	… 15
1) 水災リスクについて	… 16
2) 火災保険について	… 24
3) 水災補償について	… 27
4) 水災補償について <付帯者>	… 33
5) 水災補償について <非付帯者>	… 36
6) 水災被害について	… 44

調查概要

調査概要

調査目的

水災リスクや水災補償の意識実態を把握し、付帯率減少の要因や水災補償の訴求ポイントを探る。

本調査対象者

性別： 男女
年齢： 20～69歳
居住地： 全国

その他条件： 火災保険に加入している世帯主またはその配偶者（火災共済のみ加入者は除く）※
※契約者本人に限らない。加入日（契約日）を限定していないため、長期契約の加入者の場合がある。

サンプル数・割付

計：9,670名

※水災等地区分×年代で均等割付（次のページ参照）

※均等割付を実施していることから、実際の契約者属性の構成比とは異なる。

調査期間

2025年10月17日（金）～10月27日（月）

調査手法

インターネット定量調査

割付詳細・ウェイトバック集計

	20代	30代	40代	50代	60代	小計	合計
水災等地区分1等地	400	400	400	400	400	2,000	9,670
水災等地区分2等地	400	400	400	400	400	2,000	
水災等地区分3等地	400	400	400	400	400	2,000	
水災等地区分4等地	253	400	400	400	400	1,853	
水災等地区分5等地	217	400	400	400	400	1,817	

※本資料における水災等地とは、損害保険料率算出機構によるものであり、建物の所在地における火災保険の水災リスクの危険度を表した区分。リスクが最も低い「1等地」から最も高い「5等地」の5区分がある。



不足セル（「4等地×20代」「5等地×20代」）については、
400名に拡大する【ウェイトバック集計】を実施。

ウェイトバック集計

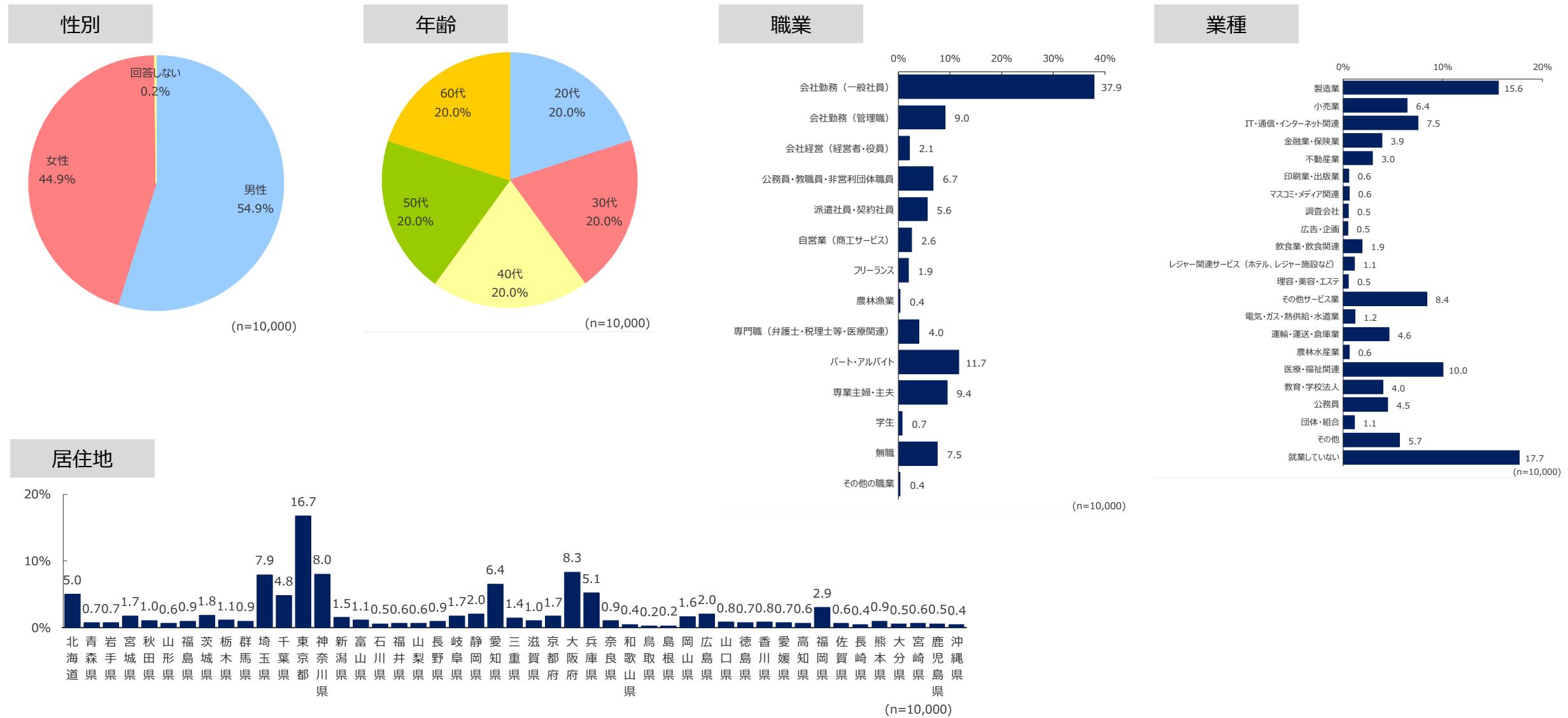
調査対象の母集団の構成比どおりに回答を集められない場合に、その構成比に合わせるために実施される重みづけ集計のこと。本調査では「5区分の水災等地」×「5区分の年代」の25セルそれぞれ400名、合計10,000名に補正するために不足セルを400名に補正するウェイトバック集計を実施。

	20代	30代	40代	50代	60代	小計	合計
水災等地区分1等地	400	400	400	400	400	2,000	10,000
水災等地区分2等地	400	400	400	400	400	2,000	
水災等地区分3等地	400	400	400	400	400	2,000	
水災等地区分4等地	400	400	400	400	400	2,000	
水災等地区分5等地	400	400	400	400	400	2,000	

※本報告書内の調査結果については、すべてウェイトバック集計後の数値を用いています。

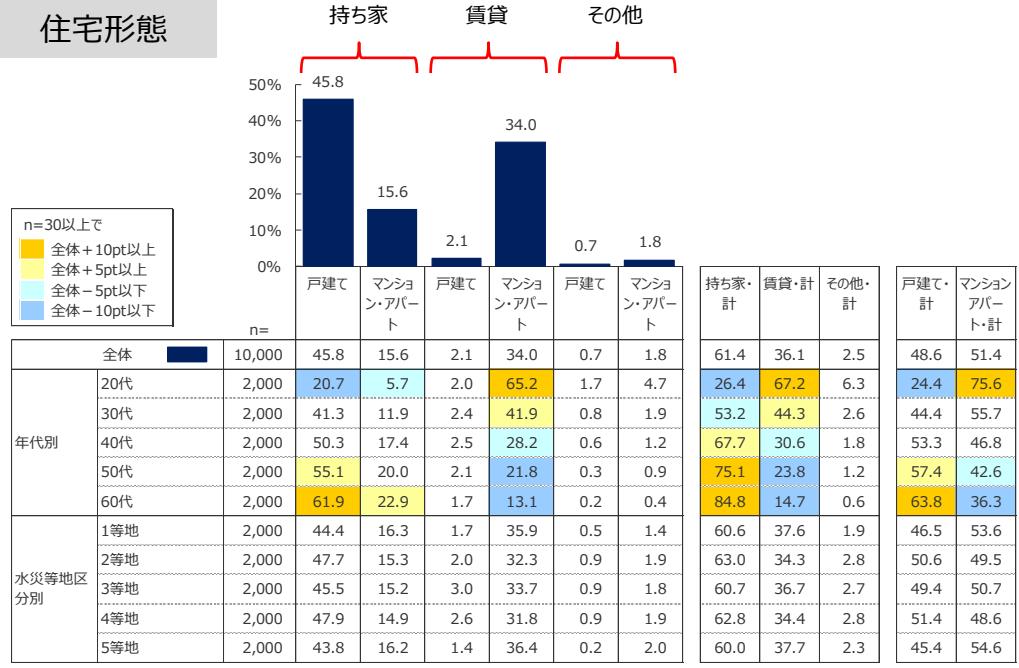
回答者プロフィール

回答者属性



住居形態

住宅形態



階数

<マンション・アパート居住者ベース>



水災等地区分

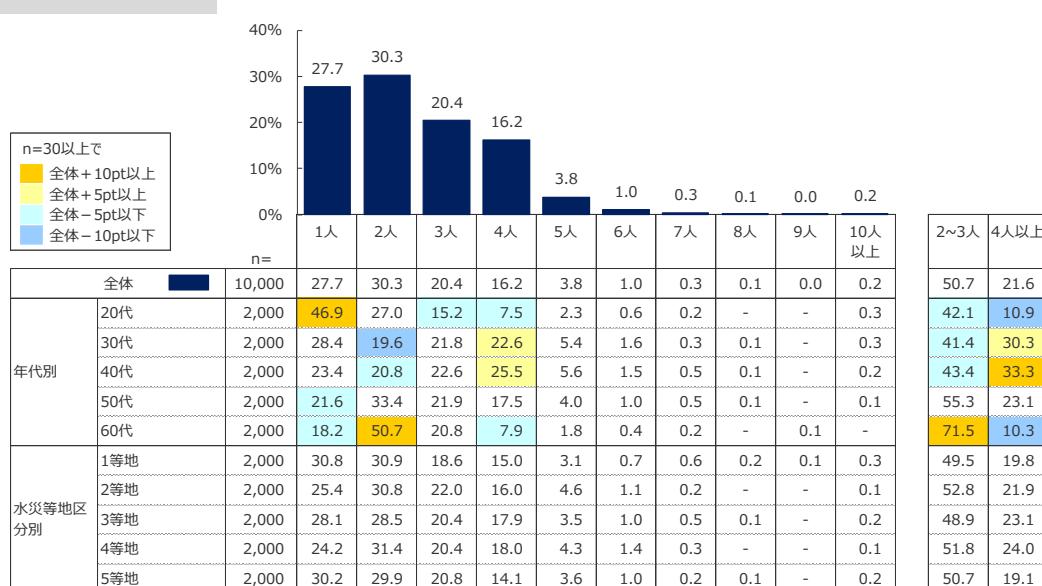


世帯属性

世帯続柄

		n=	世帯主		世帯主の配偶者		(%)	
全体			10,000	72.3	27.7			
年代別	20代	2,000	70.9	29.1				
	30代	2,000	63.6	36.4				
	40代	2,000	68.5	31.5				
	50代	2,000	75.9	24.2				
	60代	2,000	82.8	17.2				
	1等地	2,000	75.1	24.9				
水災等地 区分別	2等地	2,000	72.1	27.9				
	3等地	2,000	72.6	27.5				
	4等地	2,000	68.9	31.1				
	5等地	2,000	73.0	27.0				

世帯人数



世帯年収

		n=	世帯年収 (%)									
全体			10,000	14.0	10.8	10.2	10.2	16.0	11.0	8.8	2.1	15.3
年代別	20代	2,000	15.4	18.2	13.2	10.7	13.4	8.4	6.4	1.3	1.5	11.4
	30代	2,000	10.3	9.6	10.3	12.4	19.8	12.0	8.7	1.8	2.1	13.2
	40代	2,000	10.6	7.6	10.0	11.1	17.9	13.8	10.7	2.6	1.5	14.5
	50代	2,000	12.3	6.9	7.1	8.9	16.4	13.6	11.4	2.5	2.3	18.8
	60代	2,000	21.5	11.9	10.3	7.9	12.4	7.3	6.8	2.2	1.1	18.9
	1等地	2,000	13.8	11.1	10.2	9.7	14.3	10.6	8.7	3.0	2.5	16.3
水災等地 区分別	2等地	2,000	14.1	10.1	10.5	11.4	16.2	11.9	8.4	2.0	1.2	14.4
	3等地	2,000	13.7	11.5	10.9	11.0	16.0	11.0	8.3	1.2	1.4	15.3
	4等地	2,000	14.2	10.8	9.0	9.4	17.2	10.9	9.4	2.0	2.0	15.0
	5等地	2,000	14.3	10.6	10.3	9.4	16.2	10.7	9.2	2.2	1.5	15.7

サマリー

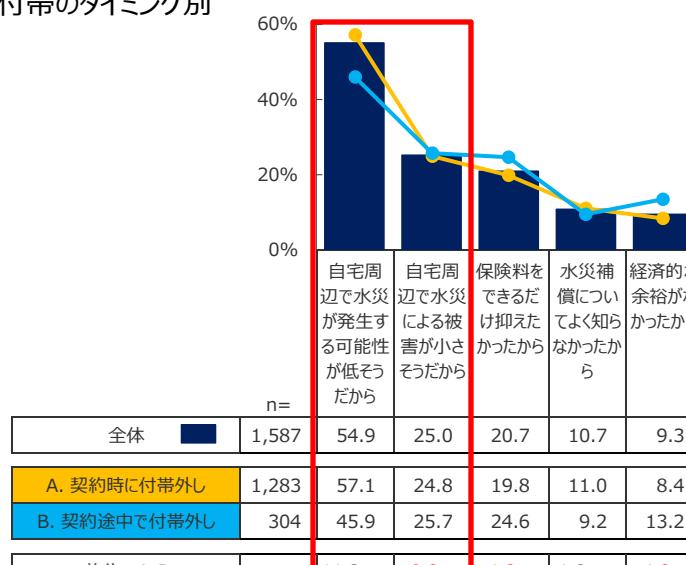
水災補償の付帯率が減少している要因

①顧客自身がハザードマップ等で水災リスクが低いと判断して水災補償を外していると考えられる

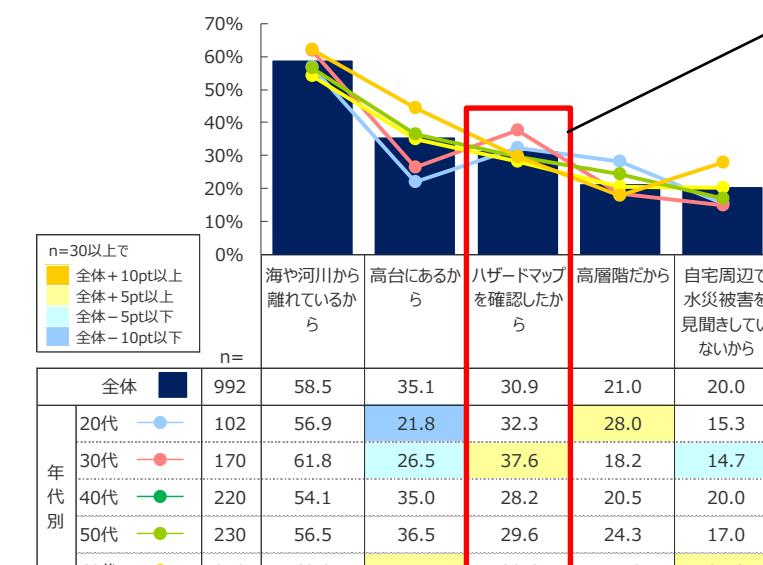
- ✓ 水災補償を付帯していない理由で自宅周辺で「水災発生の可能性が低そう(54.9%)」「水災被害が小さそう(25.0%)」がトップ2となった。トップ項目を付帯を外したタイミング別(契約時/契約途中)でみると契約時の方が11pt高い (=契約時の方が、リスクが低いと判断して付帯を外している様子)。
- ✓ 自宅周辺で水災リスクが低いと判断した理由トップ3は「海や河川から離れている(58.5%)」「高台にある(35.1%)」「ハザードマップを確認した(30.9%)」。年代別で「ハザードマップ確認」をみると若年層ほど高い (=若年層ほど、判断時にハザードマップを確認した様子)。
- ✓ ハザードマップで、自宅の浸水深を具体的に把握しているのは47.0%となった (=ハザードマップ確認にて判断した方のうち、約半数が自宅の状況把握ができる様子)。

水災補償を付帯していない理由 (Q15_3 : 全体トップ5/15項目中)
<水災補償非付帯者かつ外したタイミング覚えている方ベース>

■ 非付帯のタイミング別

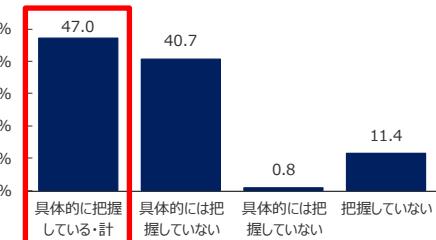


水災リスク低いと判断した理由 (Q16 : 全体トップ5/9項目中)
<非付帯の理由で水災リスクが低いと判断した方ベース>



ハザードマップ把握状況 (Q3)
<Q9「ハザードマップを確認したから」回答者ベース>

■ 全体



「具体的に把握している・計」
…各選択肢（具体的な浸水深）の小計です。

水災補償の付帯率が減少している要因

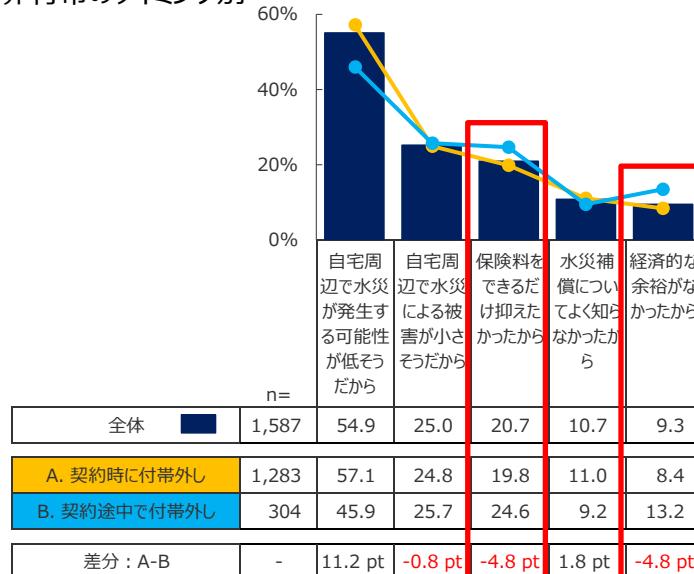
②保険料と補償内容のバランスを踏まえて、水災補償を外していると考えられる

- ✓ 水災補償を付帯していない理由で、第3位は「保険料をできるだけ抑えたかったから」・第5位が「経済的な余裕がなかったから」となった。付帯を外したタイミング別（契約時/契約途中）でみると契約途中の方が5pt高い（＝契約途中のほうが、経済面を考慮して付帯を外している様子）。また、年代別でみると若年層ほど高い（＝若年層ほど経済面を考慮して付帯を外している様子）。
- ✓ また、火災保険選定時に最も重視する点は、「保険料と補償内容のバランス」が最多。

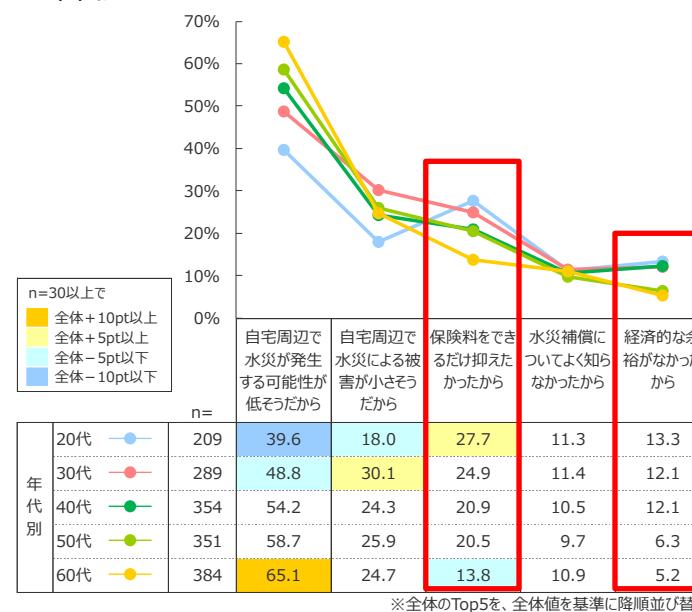
水災補償を付帯していない理由 (Q15_3 : 全体トップ5/15項目中)

<水災補償非付帯者かつ外したタイミング覚えている方ベース>

■非付帯のタイミング別



■年代別



Q6_2 : 火災保険選定時の最重視点 (トップ2+a)

<水災補償非付帯者かつ外したタイミング覚えている方ベース>

■年代別

年齢別	n=	(%)			
		保険料の安さ	保険料と補償内容の充実度のバランスの良さ	その他・計	特に重視していることはない
全体	1,587	23.1	43.7	24.6	8.6
20代	209	25.3	39.0	27.8	7.9
30代	289	26.6	44.3	21.8	7.3
40代	354	24.9	46.0	20.1	9.0
50代	351	18.8	46.2	25.9	9.1
60代	384	21.6	41.4	27.9	9.1

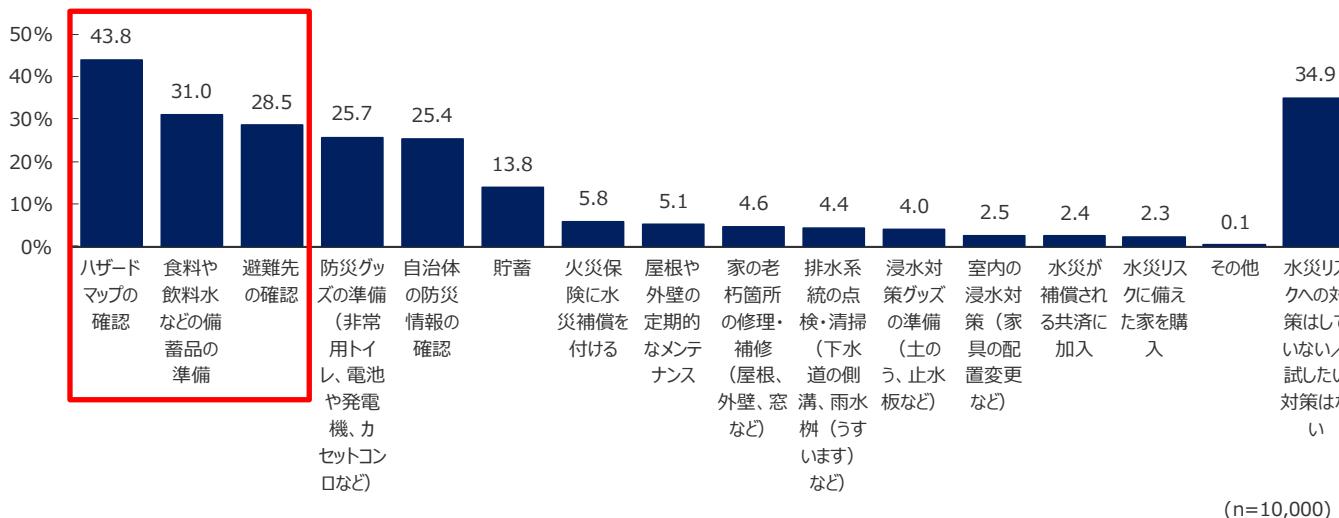
「その他・計」…補償内容のわかりやすさ、十分に広い補償範囲、必要な補償だけを選べること（カスタマイズ性）、保険会社の知名度や信頼性、保険金支払い時のスムーズさ、事故対応における評判の良さ、保険代理店の担当者との相性、契約期間中のサポート体制の良さ、契約時の手続きの簡単さ、過去の保険金支払い実績、その他、の小計です。

その他サマリー①

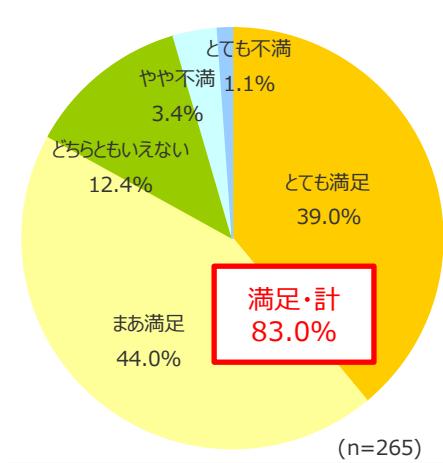
- ✓ 水災リスクへの対策トップ3は「ハザードマップの確認(43.8%)」「備蓄品の準備(31.0%)」「避難先の確認(28.5%)」と保険による備えはあまり認識されていない様子。
- ✓ 一方で、水災被害者の8割強が支払われた保険金に「満足」、約9割が水災補償を付帯していて「良かった」と回答。

→日頃からの備えは進んでいる一方で、保険による備えは十分に浸透していないため、水災リスクへの対策として保険による備えが有効であることを訴求していくことが重要。

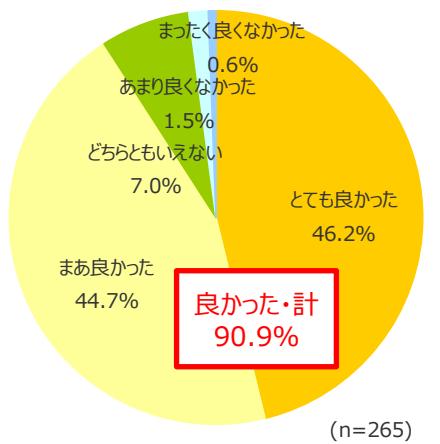
既に実施している水災リスクへの対策 (Q4_1)



保険金受領への満足度 (Q23)
<保険金受領者ベース>



水災補償付帯の評価 (Q25)
<保険金受領者ベース>

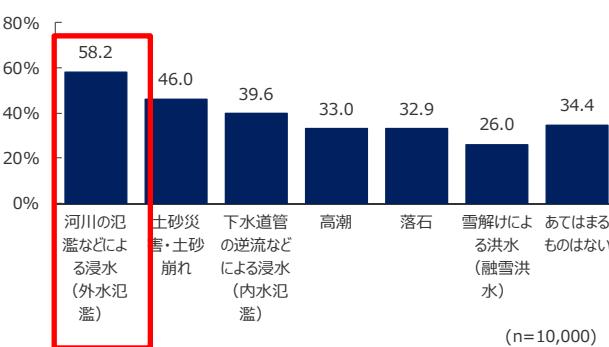


その他サマリー②

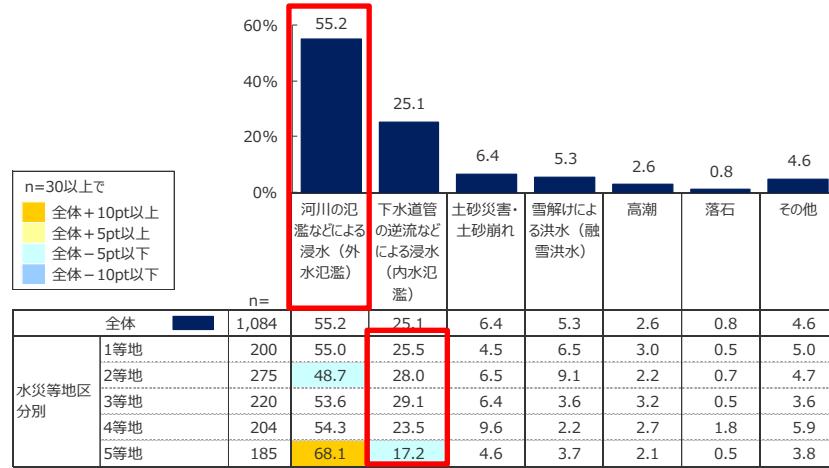
- ✓ 水災リスクの認知・被害経験、いずれも「外水氾濫」がトップ^o（認知：58.2%、被害�験：55.2%）。
- ✓ 水災補償の未付帯理由の過半数（54.9%）が「自宅周辺で水災発生の可能性が低そう」で、その判断理由は「海や河川から離れている」が最多。
- ✓ 一方で、水災被害として上位に挙がっている「内水氾濫」は、海や河川から離れていても発生する可能性がある。

→ 海や河川から離れていても水災が発生する可能性があることの認知度向上が大切。

水災リスク認知 (Q1)

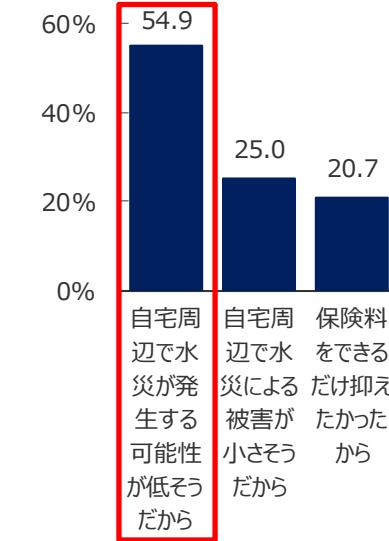


水災被害内容 (Q20) <水災被害�験者ベース>



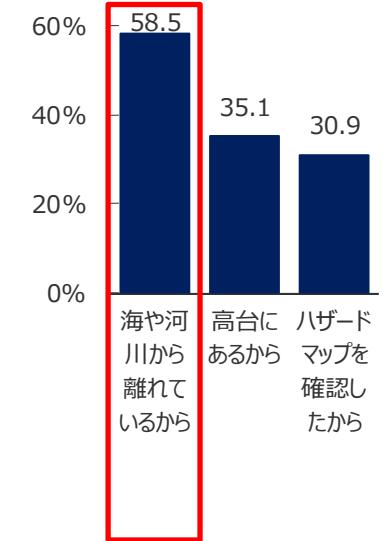
水災補償を付帯していない理由
(Q15_3 : 全体トップ3)

<水災補償非付帯者かつ外したタイミング覚えている方ベース>



水災リスク低いと判断した理由
(Q16 : 全体トップ3)

<非付帯の理由で水災リスクが低いと判断した方ベース>



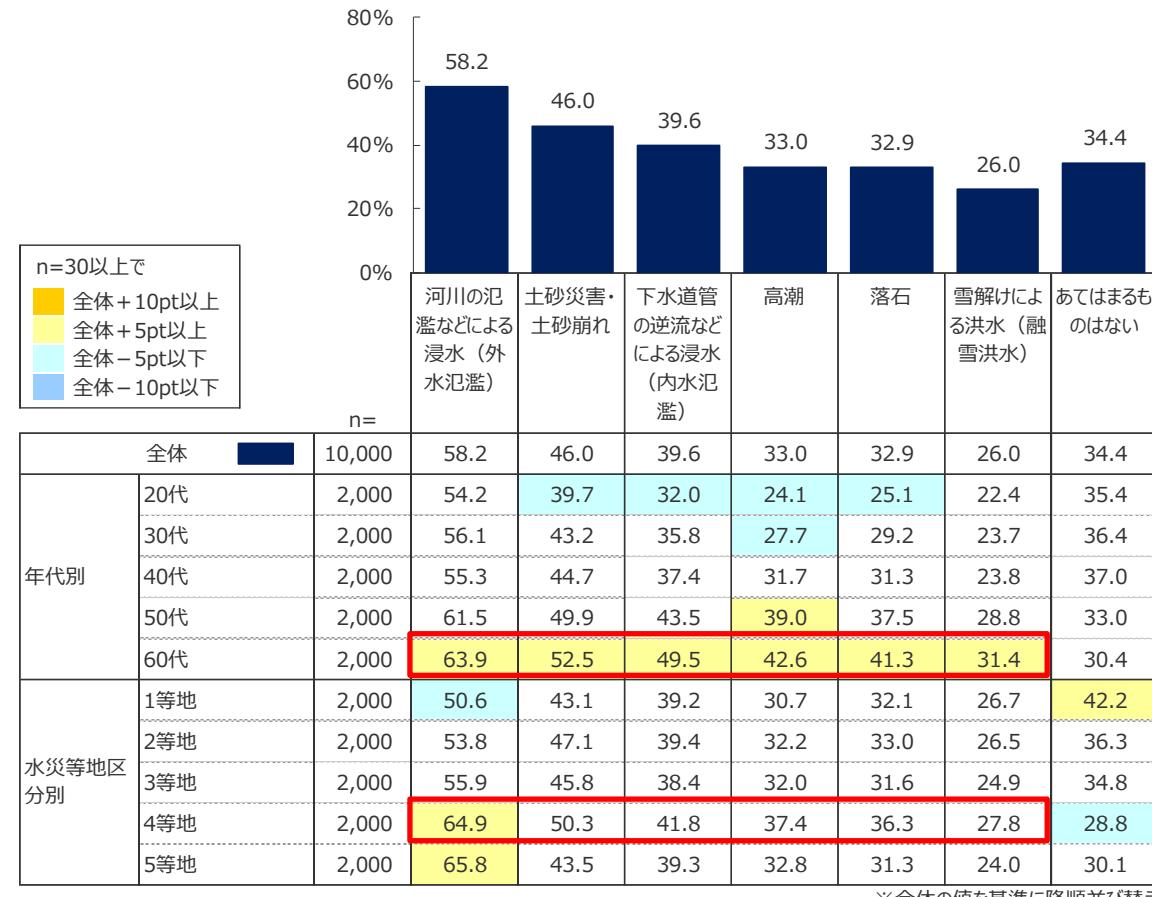
調査結果詳細

- 1) 水災リスクについて
- 2) 火災保険について
- 3) 水災補償について
- 4) 水災補償について <付帯者>
- 5) 水災補償について <非付帯者>
- 6) 水災被害について

1) 水災リスクについて

水災リスク認知

- ✓ 全体では、「外水氾濫」が58.2%で最も高く、次いで「土砂災害・土砂崩れ」(46.0%)、「内水氾濫」(39.6%)が高い。
- ✓ 年代別では、どの項目も60代が最も高く、年代が上がるほど認知率が高い。
- ✓ 水災等地区別では、ほとんどの項目で『4等地』が最も高い傾向。

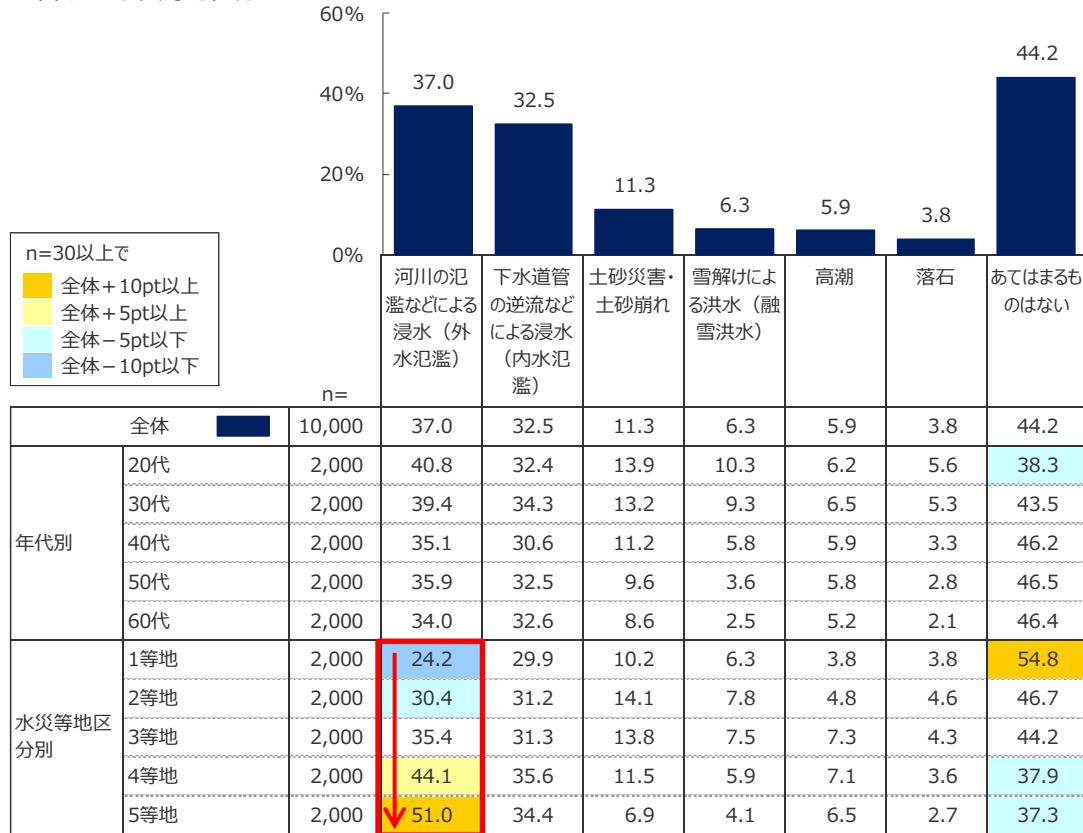


Q1 住宅における水災リスクについて、ご存知のものをすべてお答えください。(MA)

自宅で発生する可能性のある水災リスク

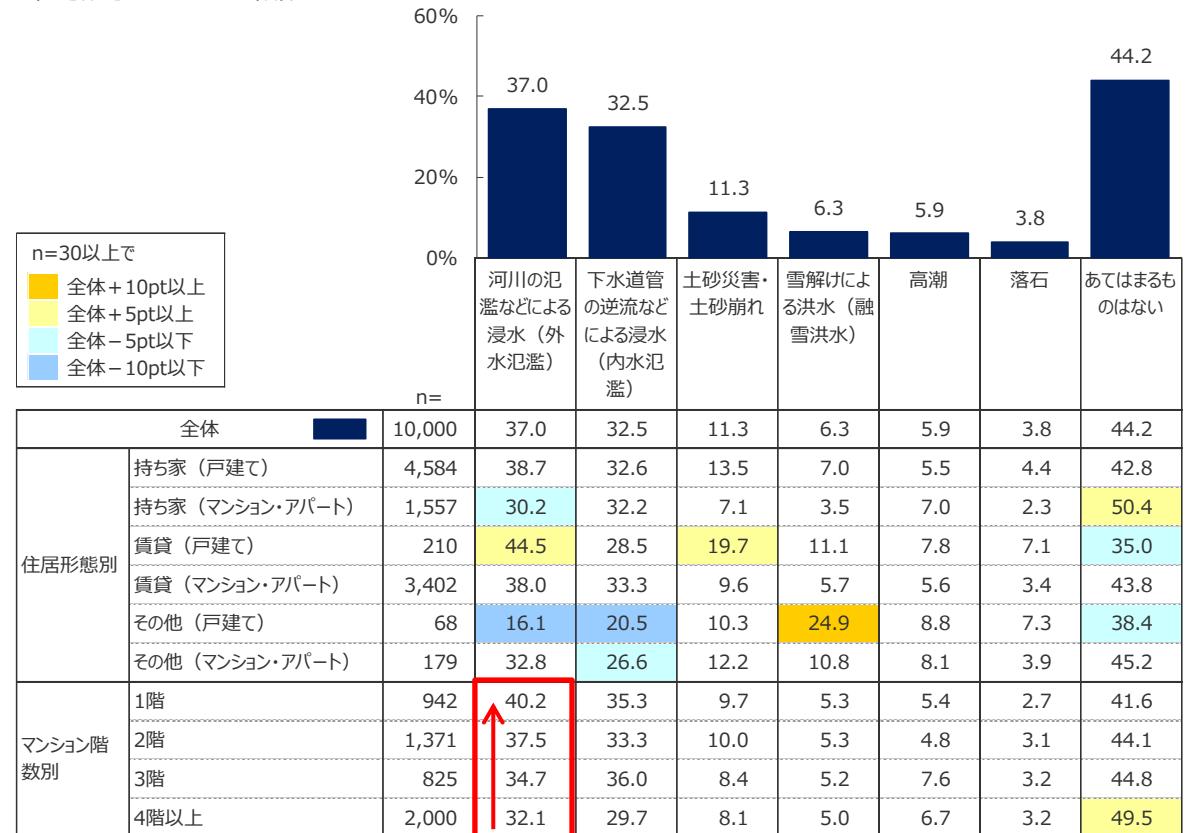
- ✓ 全体では、「外水氾濫」が37.0%で最も高く、次いで「内水氾濫」（32.5%）、「土砂災害・土砂崩れ」（11.3%）が高い。
- ✓ 水災等地区別で「外水氾濫」をみると、『5等地』（51.0%）が最も高く、リスク高地域ほど高い。
- ✓ マンション階数別で「外水氾濫」をみると、『1階』（40.2%）が最も高く、低階層ほど高い。

■年代別、水災等地区別



※全体の値を基準に降順並び替え

■住宅形態別、マンション階数別

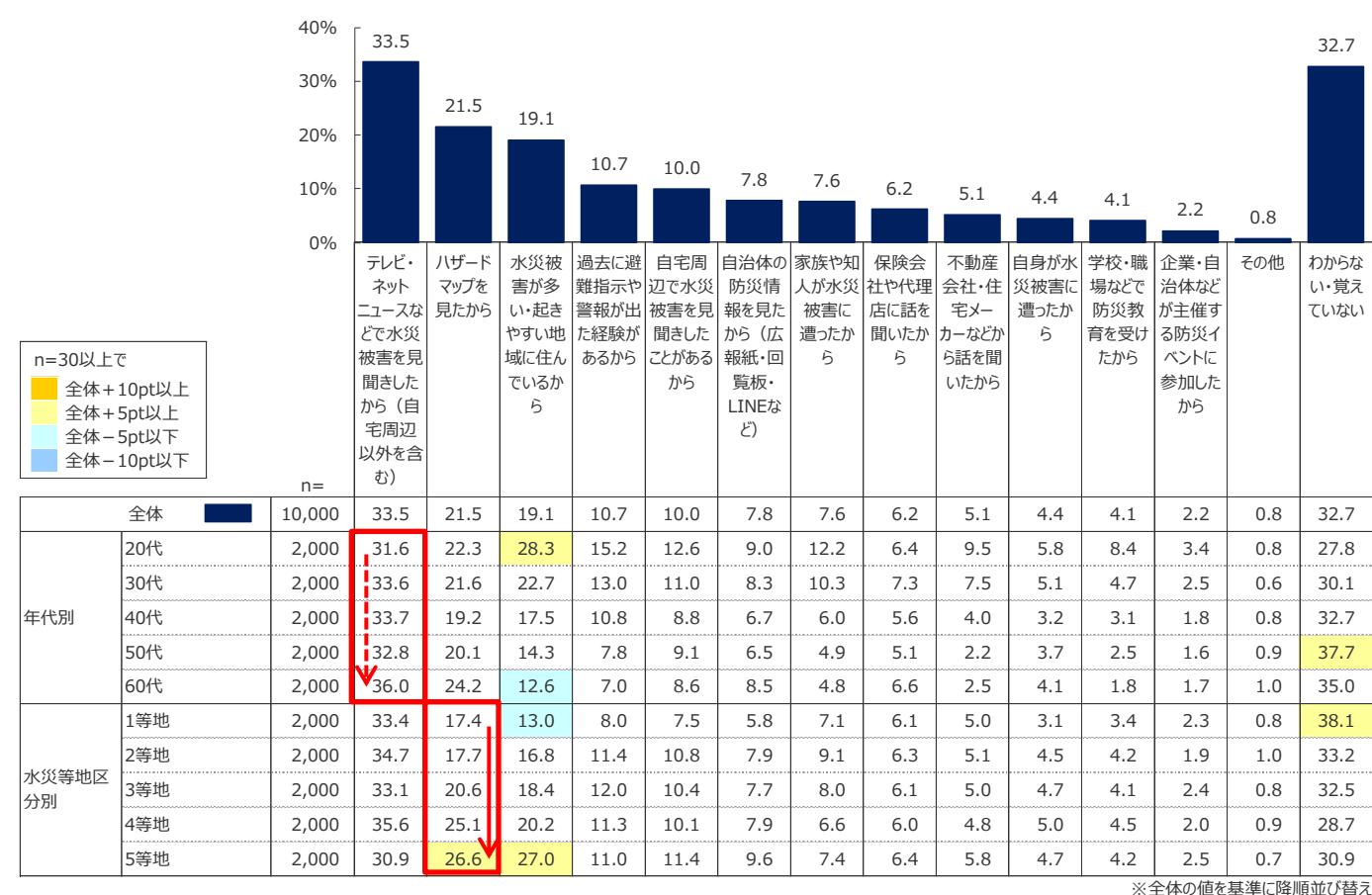


※全体の値を基準に降順並び替え

Q2 住宅における水災リスクは以下のものがあります。あなたのご自宅で起こりうる水災リスクはどのようなものが考えられますか？(MA)

水災リスク認知のきっかけ

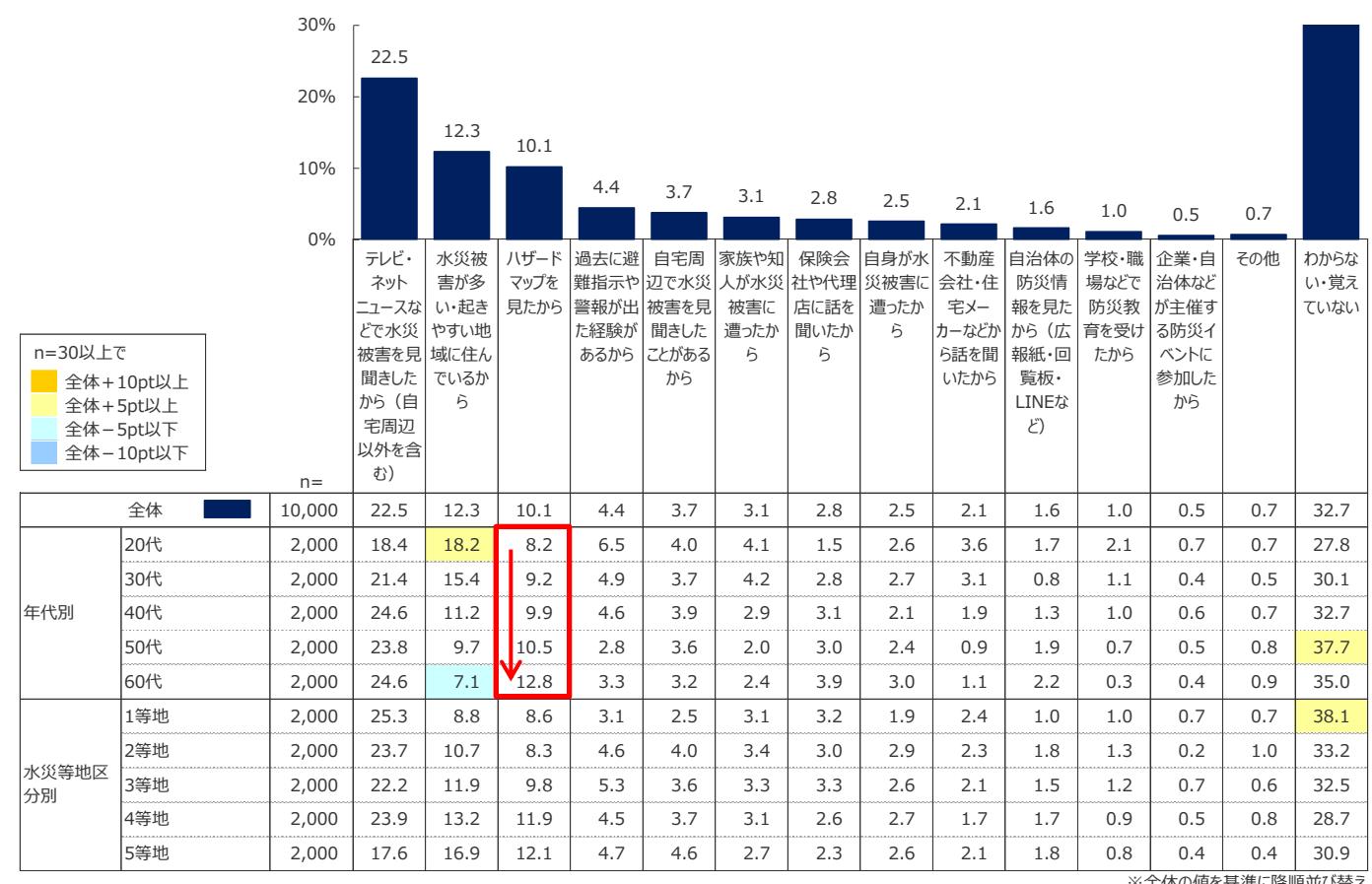
- ✓ 全体では、「テレビ・ネットニュースなどで水災被害を見聞きしたから」が33.5%で突出して最も高く、次いで「ハザードマップを見たから」（21.5%）、「水災被害が多い・起きやすい地域に住んでいるから」（19.1%）が高い。
- ✓ 年代別で「テレビ・ネットニュースなどで水災被害を見聞きしたから」をみると、『60代』（36.0%）が最も高く、年代が上がるほど高い傾向。
- ✓ 水災等地区別で「ハザードマップを見たから」をみると、『5等地』（26.6%）が最も高く、リスク高地域ほど高い傾向。



Q3_1 ご自宅の水災リスクを認識したきっかけをお知らせください。／認識したきっかけ(MA)

水災リスク認知の一番のきっかけ

- ✓ 全体では、「テレビ・ネットニュースなどで水災被害を見聞きしたから」が22.5%で突出して最も高く、次いで「水災被害が多い・起きやすい地域に住んでいるから」(12.3%)、「ハザードマップを見たから」(10.1%)が高い。
- ✓ 年代別で「ハザードマップを見たから」をみると、『60代』(12.8%)が最も高く、年代が上がるほど高い傾向。

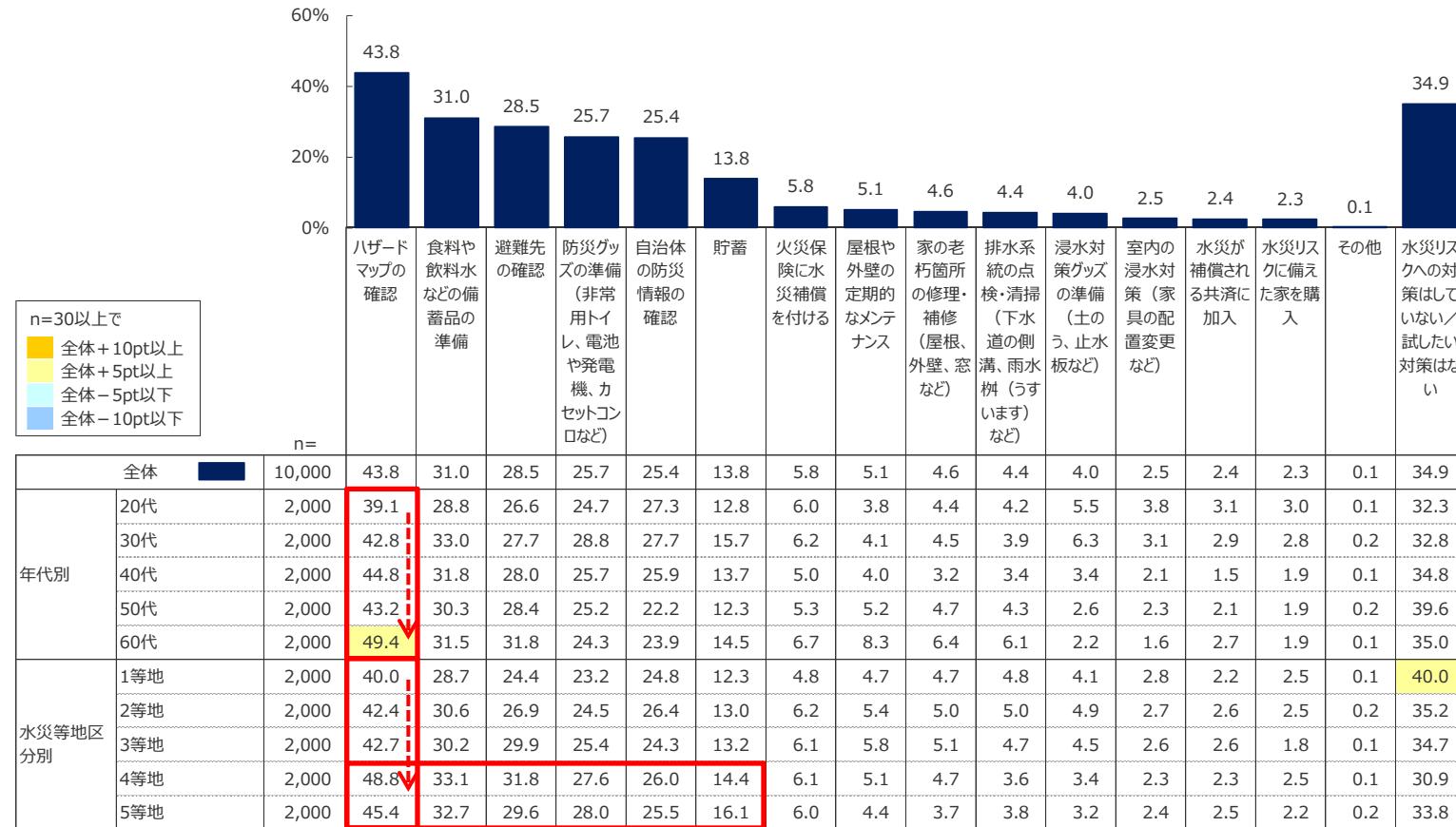


Q3_2 ご自宅の水災リスクを認識したきっかけをお知らせください。／認識した一番のきっかけ(SA)

※前問で回答した選択肢のみ回答可能

既に実施している水災リスク対策

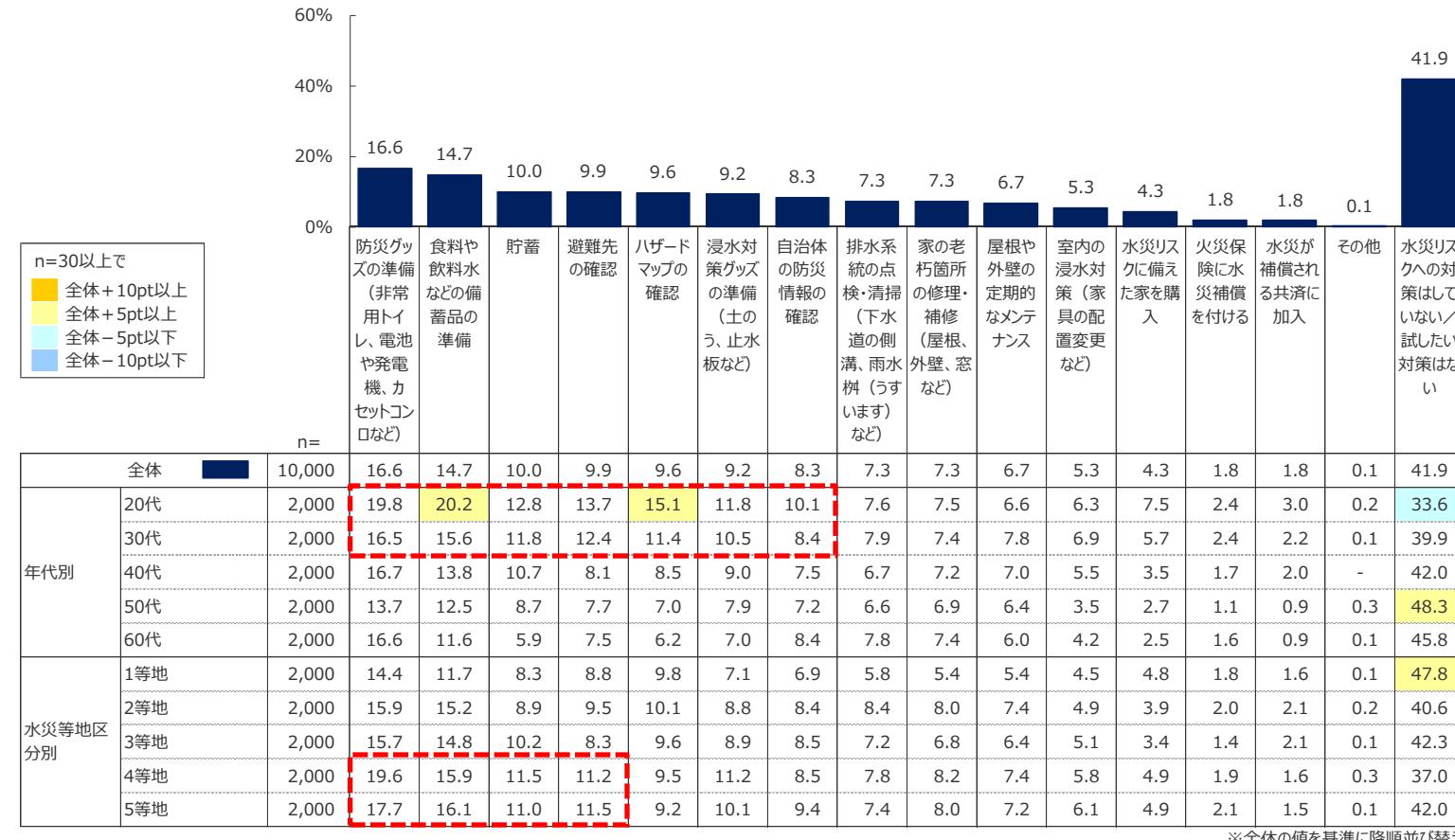
- ✓ 全体では、「ハザードマップの確認」が43.8%で突出して最も高く、次いで「食料や飲料水などの備蓄品の準備」（31.0%）、「避難先の確認」（28.5%）が高い。
- ✓ 年代別で「ハザードマップの確認」をみると、『60代』（49.4%）が最も高く、年代が上がるほど高い傾向。
- ✓ 水災等地区別で全体トップ6項目をみると、『4等地』『5等地』が高く、リスク高地域ほど高い傾向。特に「ハザードマップの確認」はその傾向が顕著。



Q4_1 水災リスクへの対策について、既に実施しているもの・今後試したいものをお答えください。／既に実施している対策(MA)

今後実施したい水災リスク対策

- ✓ 全体では、「防災グッズの準備」が16.6%で最も高く、次いで「食料や飲料水などの備蓄品の準備」(14.7%)、「貯蓄」(10.0%)が高い。
- ✓ 年代別で全体トップ7項目をみると、『20代』が最も高く、若年層ほど高い傾向。
- ✓ 水災等地区別で全体トップ4項目をみると、『4等地』『5等地』が高く、リスク高地域ほど高い傾向。



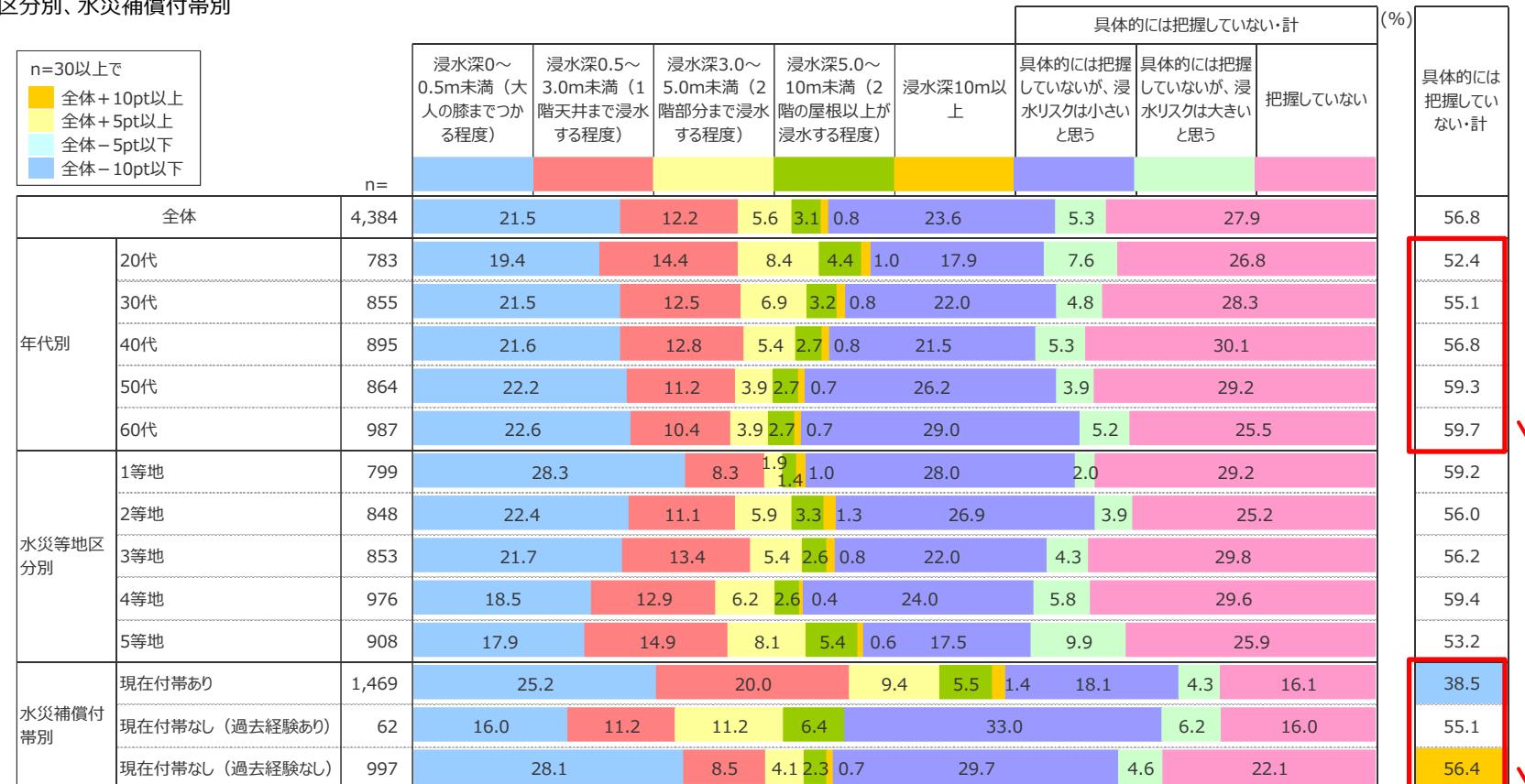
Q4_2 水災リスクへの対策について、既に実施しているもの・今後試したいものをお答えください。／今後試したい対策(MA)

※「既に実施している対策」以外を回答可能

ハザードマップの把握内容

- ✓ 全体では、「具体的には把握していない・計」が56.8%となった。
- ✓ 年代別で「具体的には把握していない・計」をみると、『60代』(59.7%) が最も高く、年代が上がるほど高い。
- ✓ 水災等地区別で「具体的には把握していない・計」をみると、『4等地』(59.4%) が最も高く、次いで『1等地』(59.2%) が高い。
- ✓ 水災補償付帯別で「具体的には把握していない・計」をみると、『現在付帯なし（過去経験なし）』(56.4%) が最も高い。

■年代別、水災等地区別、水災補償付帯別

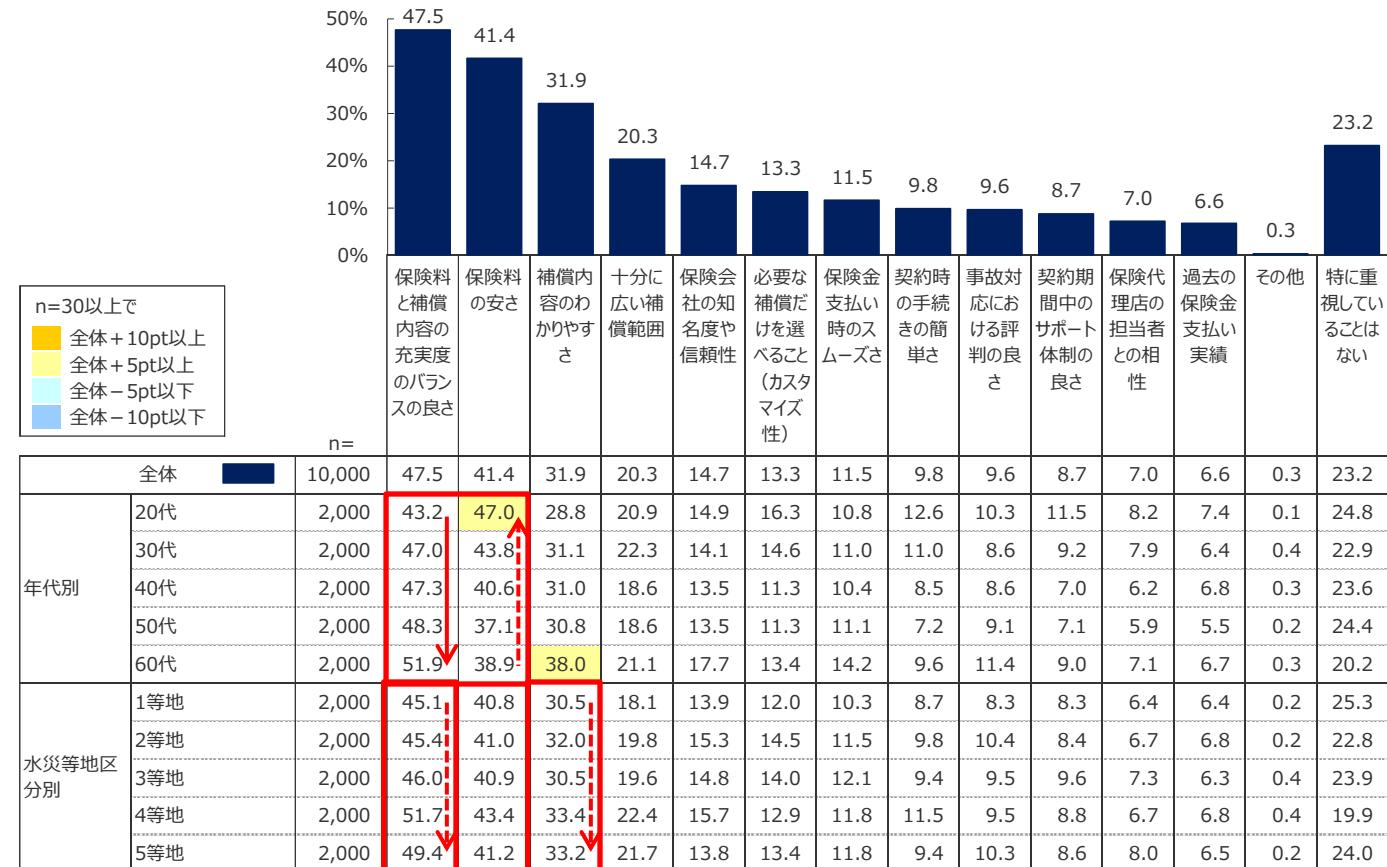


Q5 ハザードマップでは、ご自宅の水災リスク（浸水深）がどのように示されているか把握していますか。(SA) <水災リスクへの対策で「ハザードマップ確認」している方ベース>

2) 火災保険について

火災保険選定時の重視点

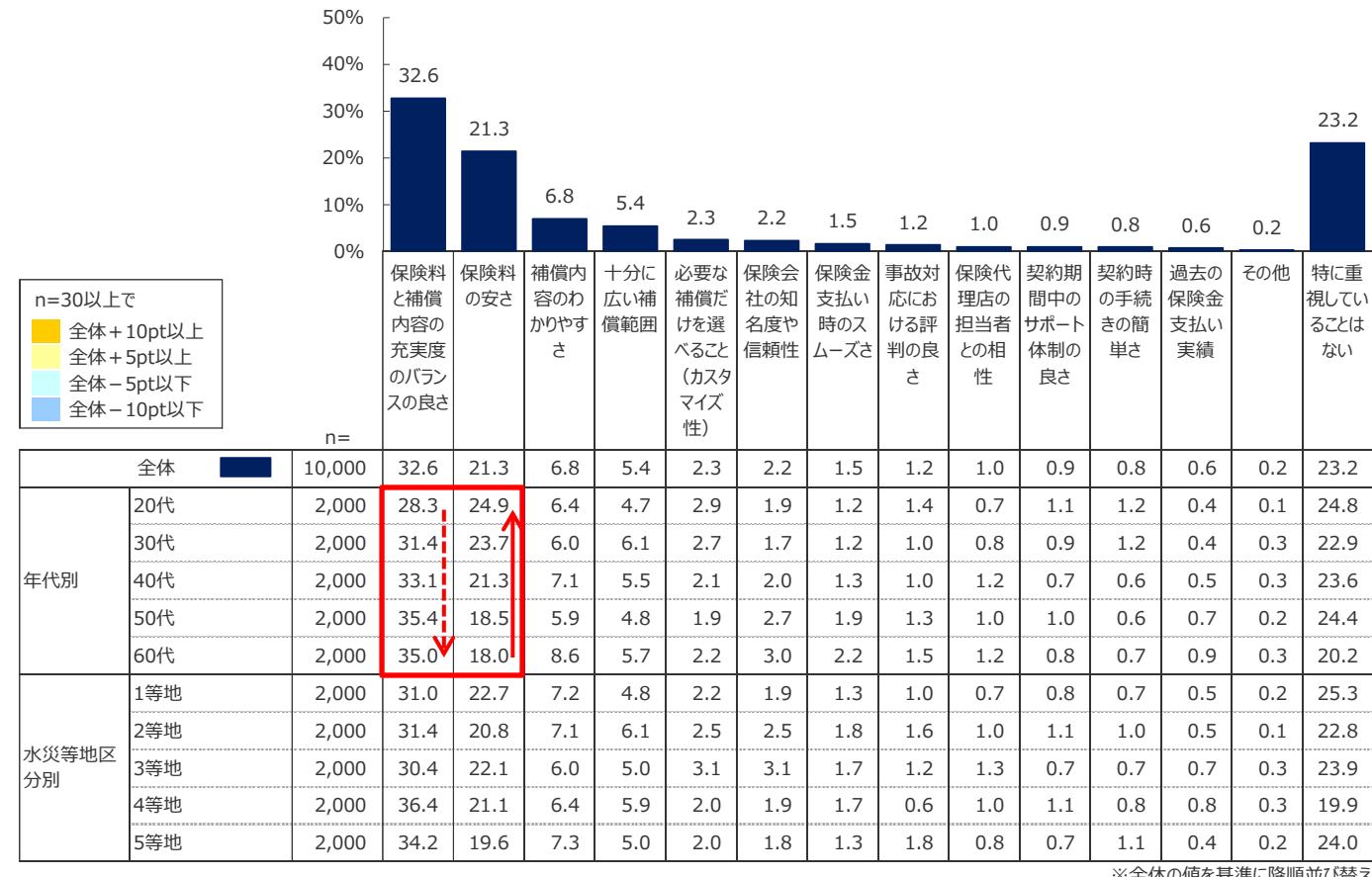
- ✓ 全体では、「保険料と補償内容の充実度のバランスの良さ」が47.5%で最も高く、次いで「保険料の安さ」(41.4%)、「補償内容のわかりやすさ」(31.9%)が高い。
- ✓ 年代別で「保険料と補償内容の充実度のバランスの良さ」をみると『60代』(51.9%)が最も高く、年代が上がるほど高い。「保険料の安さ」をみると『20代』(47.0%)が最も高く、年代が下がるほど高い傾向。
- ✓ 水災等地区別で「保険料と補償内容の充実度のバランスの良さ」「補償内容のわかりやすさ」をみると、『4等地』が最も高く、リスク高地域ほど高い傾向。



Q6_1 あなたは、火災保険を選ぶ際どのような点を重視していますか？／重視していること(MA)

火災保険選定時の最重視点

- ✓ 全体では、「保険料と補償内容の充実度のバランスの良さ」が32.6%で突出して最も高く、次いで「保険料の安さ」(21.3%)、「補償内容のわかりやすさ」(6.8%)が高い。
- ✓ 年代別で「保険料と補償内容の充実度のバランスの良さ」をみると『50代』(35.4%)が最も高く、年代が上がるほど高い傾向。「保険料の安さ」をみると、『20代』(24.9%)が最も高く、年代が下がるほど高い。



Q6_2 あなたは、火災保険を選ぶ際どのような点を重視していますか？／最も重視していること(SA)

3) 水災補償について

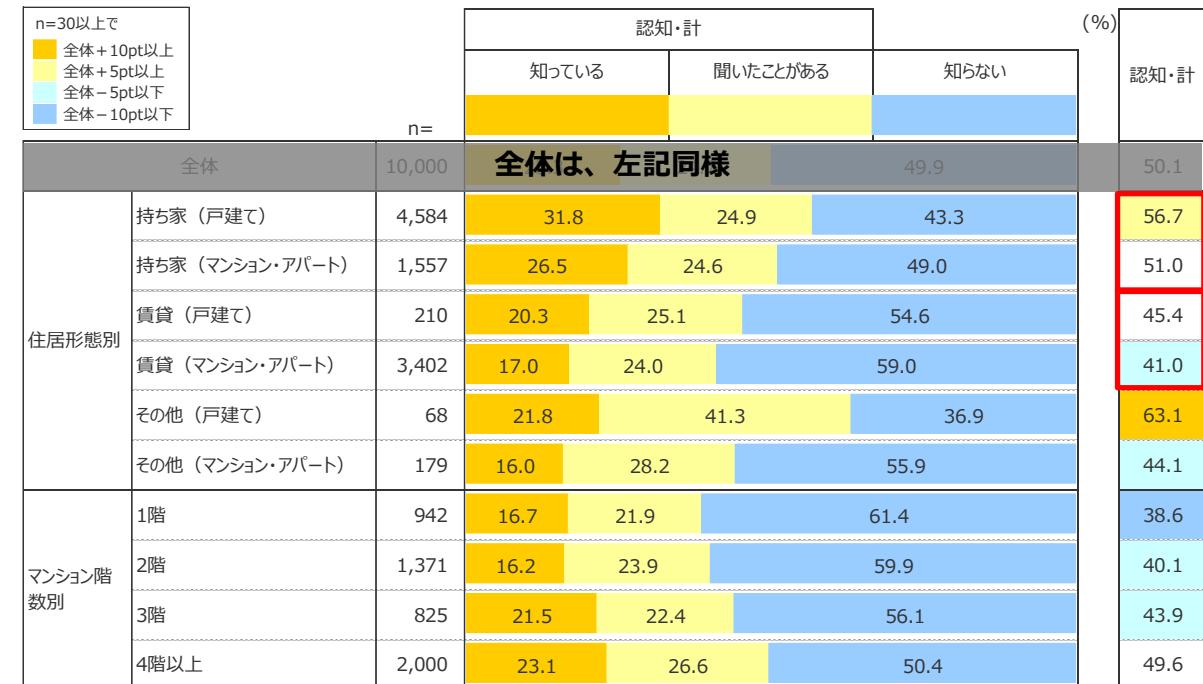
水災補償商品の認知

- ✓ 全体では、水災補償の「認知・計」（知っている・聞いたことがある）は50.1%となった。
- ✓ 年代別で「認知・計」をみると、『60代』（53.4%）が最も高く、ミドル層の認知率が低い傾向。
- ✓ 住宅形態別で「認知・計」をみると、『賃貸』よりも『持ち家』の方が認知率が高い傾向。

■年代別、水災等地区別



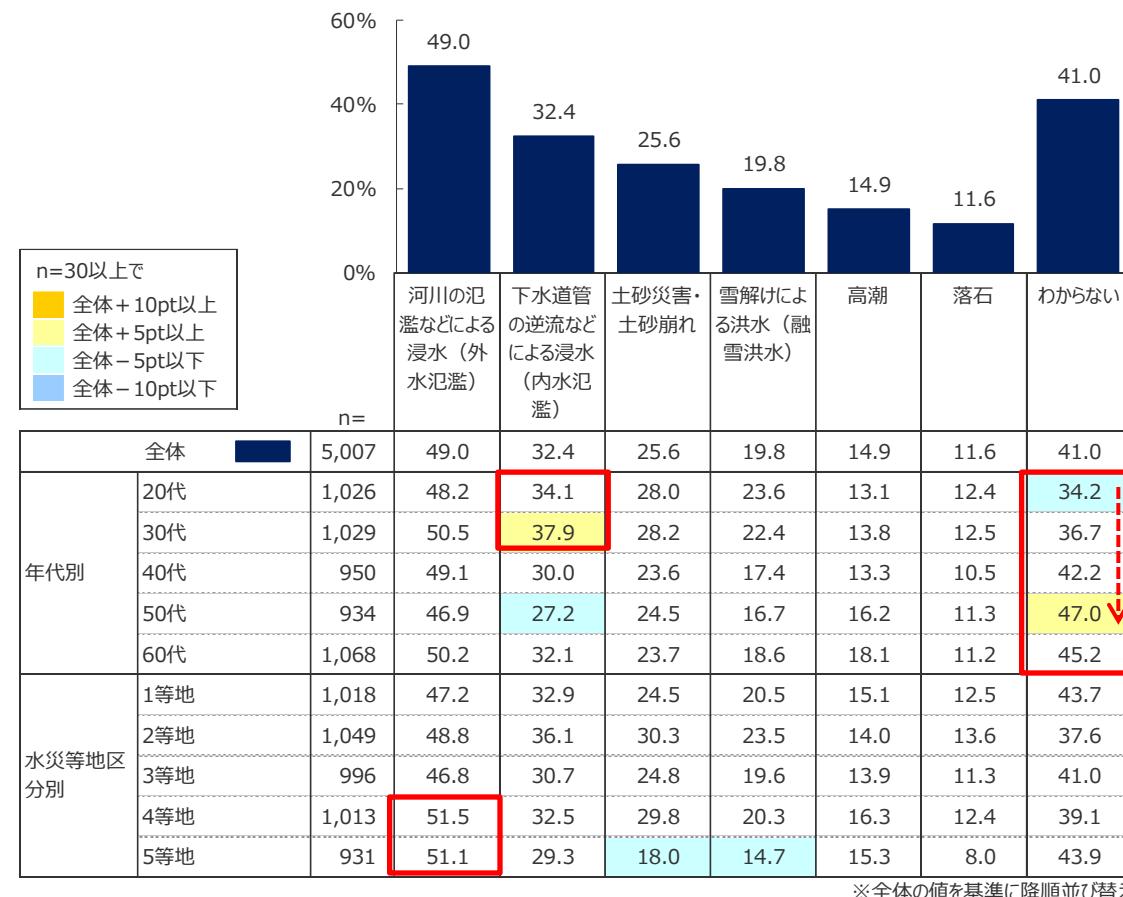
■住宅形態別、マンション階数別



Q7 あなたは火災保険において、水災が補償対象となる商品・オプションがあることをご存知ですか？(SA)

水災補償で補償される水災リスクの認知

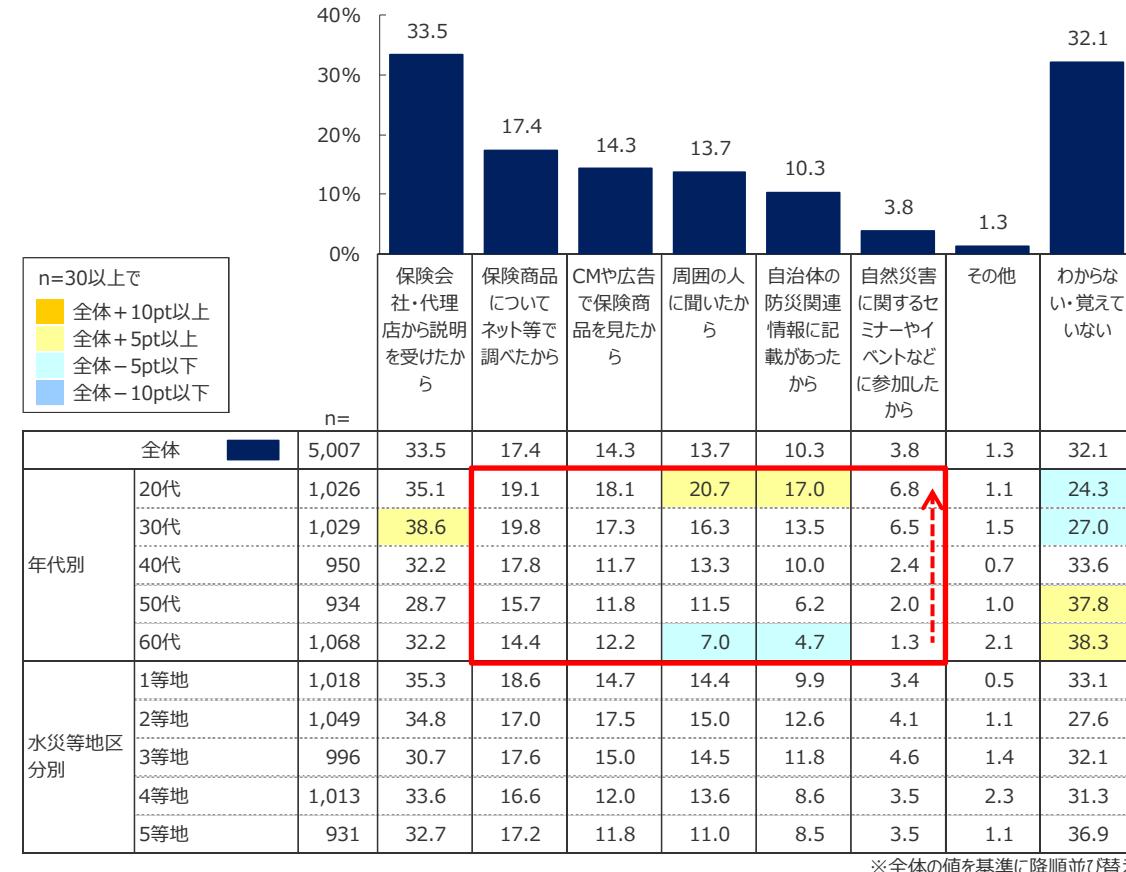
- ✓ 全体では、「外水氾濫」が49.0%で突出して最も高く、次いで「内水氾濫」（32.4%）、「土砂災害・土砂崩れ」（25.6%）が高い。
- ✓ 年代別で「内水氾濫」をみると、『30代』（37.9%）が最も高く、次いで『20代』（34.1%）と若年層が高い傾向。「わからない」をみると、『50代』（47.0%）が最も高く、年代が上がるほど高い傾向。
- ✓ 水災等地区別で「外水氾濫」をみると、『4等地』（51.5%）が最も高く、次いで『5等地』（51.1%）とリスク高地域が高い傾向。



Q8 水災補償付き火災保険で補償される水災リスクをご存じですか？考えられるものすべてお知らせください。(MA) <水災補償認知者ベース>

水災補償の認知きっかけ

- ✓ 全体では、「保険会社・代理店から説明を受けたから」が33.5%で突出して最も高く、次いで「保険商品についてネット等で調べたから」（17.4%）、「CMや広告で保険商品を見たから」（14.3%）が高い。
- ✓ 年代別では、全体順位トップの「保険会社・代理店から説明を受けたから」以外は、多くの項目で年代が下がるほど高い傾向。

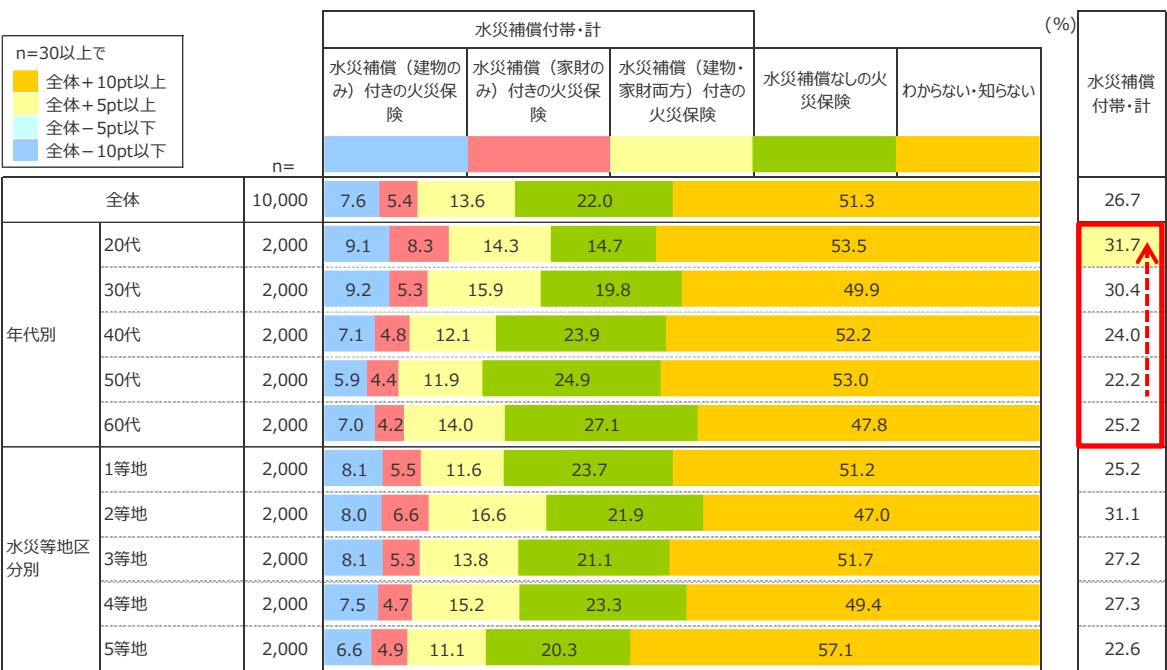


Q9 火災保険において、水災が補償対象となることを知ったきっかけをお答えください。(MA) <水災補償認知者ベース>

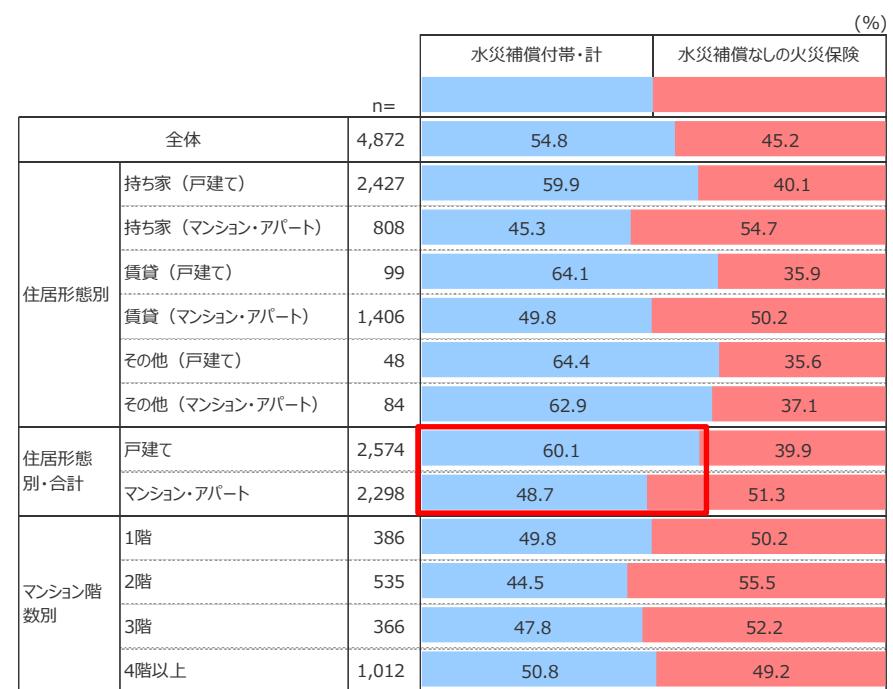
水災補償付帯有無

- ✓ 全体では、「水災補償付帯・計」が26.7%、「わからない・知らない」は51.3%となった。「わからない・知らない」を除いた「水災補償付帯・計」は54.8%。
- ✓ 年代別で「水災補償付帯・計」をみると、『20代』(31.7%) が最も高く、年代が下がるほど高い傾向。
- ✓ 住宅形態別・合計で「水災補償付帯・計」をみると、『戸建て』(60.1%) が『マンション・アパート』(48.7%) を11pt上回る。（「わからない・知らない」を除いて再集計）

■年代別、水災等地区別



■住宅形態別

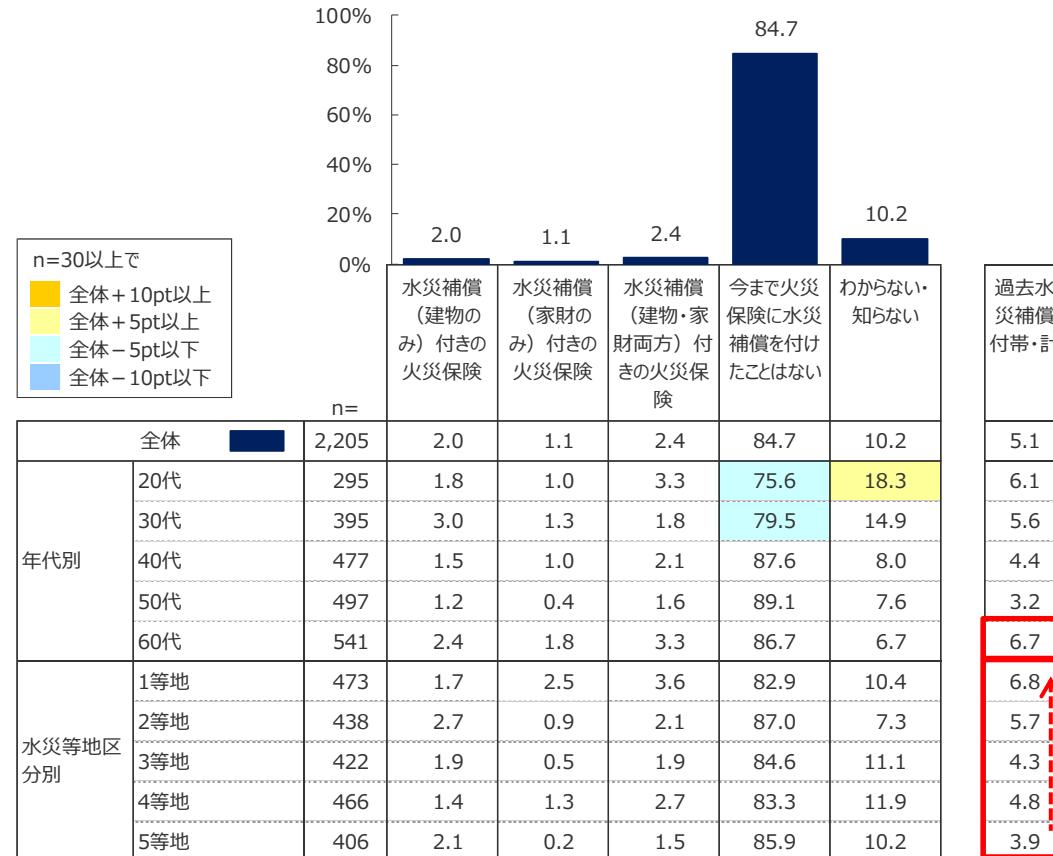


※「わからない・知らない」を除いて再集計

Q10 あなたが現在加入している火災保険に水災補償は付いていますか？(SA) <火災保険加入者ベース>

過去の水災補償付帯経験（水災補償非付帯者ベース）

- ✓ 全体では、「過去水災補償付帯・計」が5.1%となった。
- ✓ 年代別で「過去水災補償付帯・計」をみると、『60代』(6.7%) が最も高い。
- ✓ 水災等地区別で「過去水災補償付帯・計」をみると『1等地』(6.8%) が最も高く、リスク低地域ほど高い傾向。



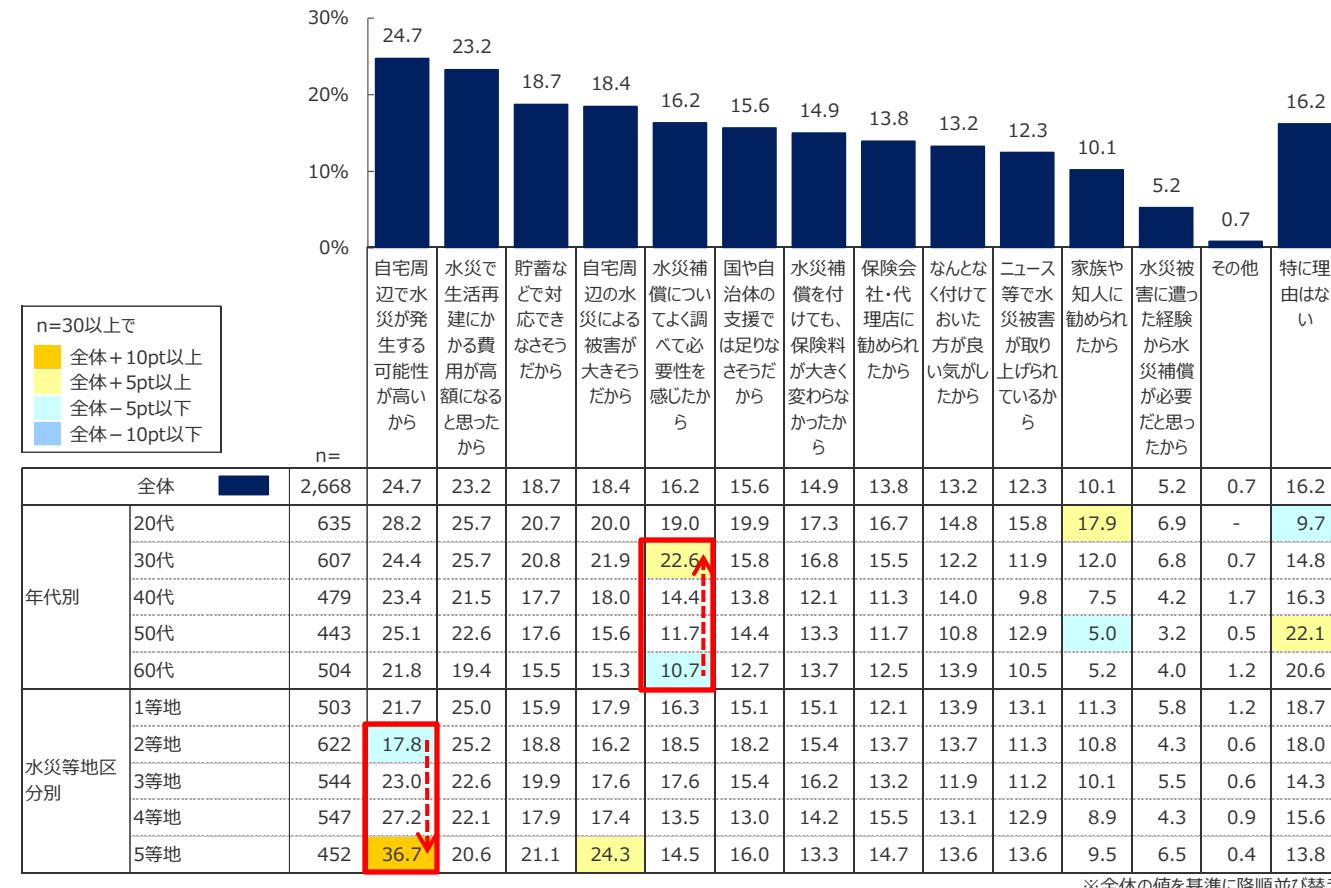
Q11 過去に水災補償付きの火災保険に加入していた経験はありますか？(MA) <現在水災補償付帯なしの方ベース>

※「過去水災補償付帯・計」…「水災補償（建物のみ）付の火災保険」+「水災補償（家財のみ）付の火災保険」+「水災補償（建物・家財両方）付の火災保険」

4) 水災補償について <付帯者>

水災補償付帯理由

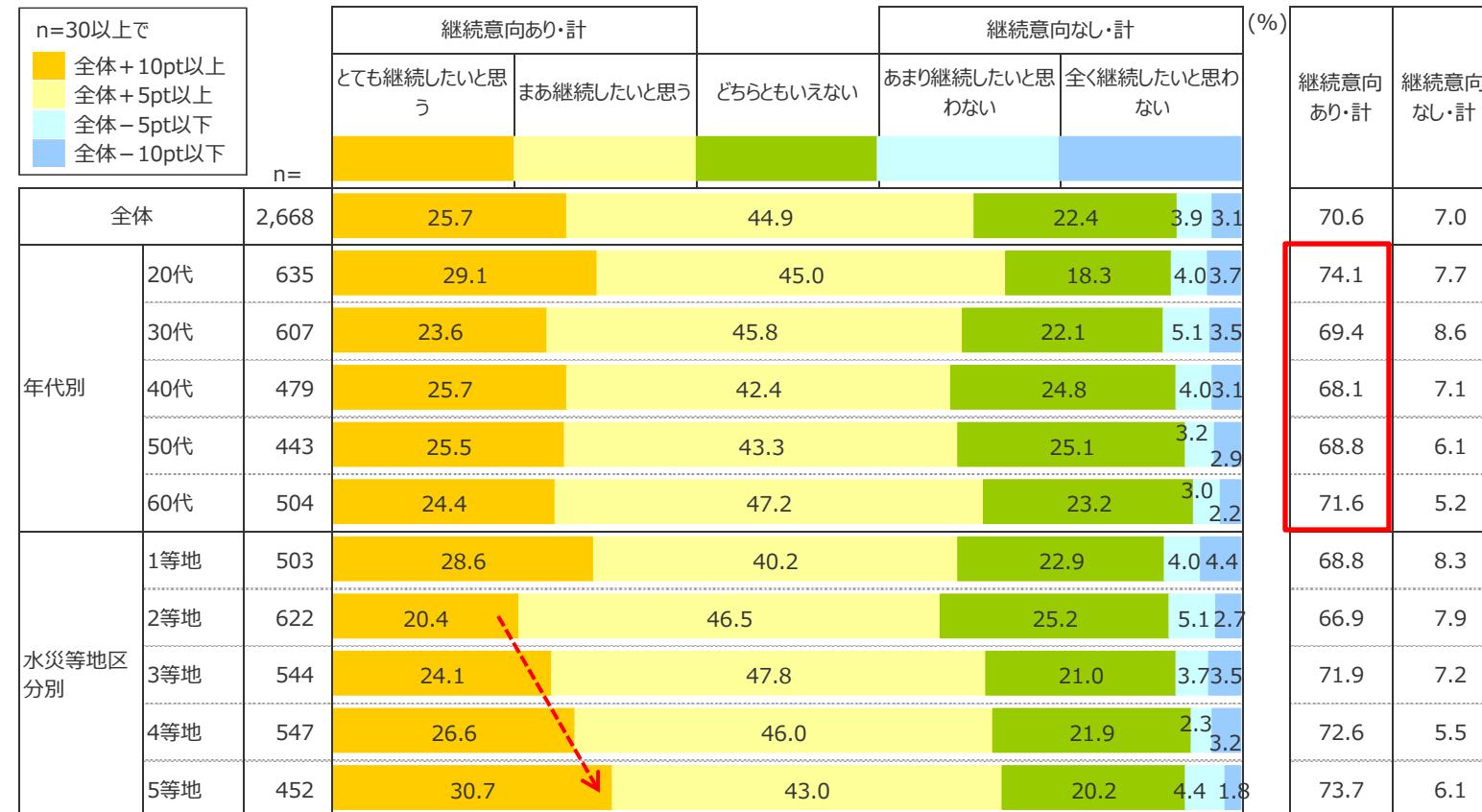
- ✓ 全体では、「自宅周辺で水災が発生する可能性が高いから」が24.7%で最も高く、次いで「水災で生活再建にかかる費用が高額になると思ったから」（23.2%）、「貯蓄などで対応できなさそうだから」（18.7%）が高い。
- ✓ 年代別で「水災補償についてよく調べて必要性を感じたから」をみると、『30代』（22.6%）が最も高く、『20代』を除くと年代が下がるほど高い傾向。
- ✓ 水災等地区別で「自宅周辺で水災が発生する可能性が高いから」をみると、『5等地』（36.7%）が最も高く、『1等地』を除くとリスク高地域ほど高い傾向。



Q12 火災保険に「水災補償」を付帯している理由をお答えください。(MA) <水災補償現在付帯者ベース>

水災補償付帯の継続意向

- ✓ 全体では、「継続意向あり・計」が70.6%、「継続意向なし・計」は7.0%となった。
- ✓ 年代別で「継続意向あり・計」をみると、『20代』(74.1%) が最も高く、最も低い『40代』(68.1%) と比較すると、6pt差となった。
- ✓ 水災等地区別で「とても継続したいと思う」をみると、『5等地』(30.7%) が最も高く、次いで『1等地』(28.6%) が高い。『1等地』を除くとリスク高地域ほど高い傾向。

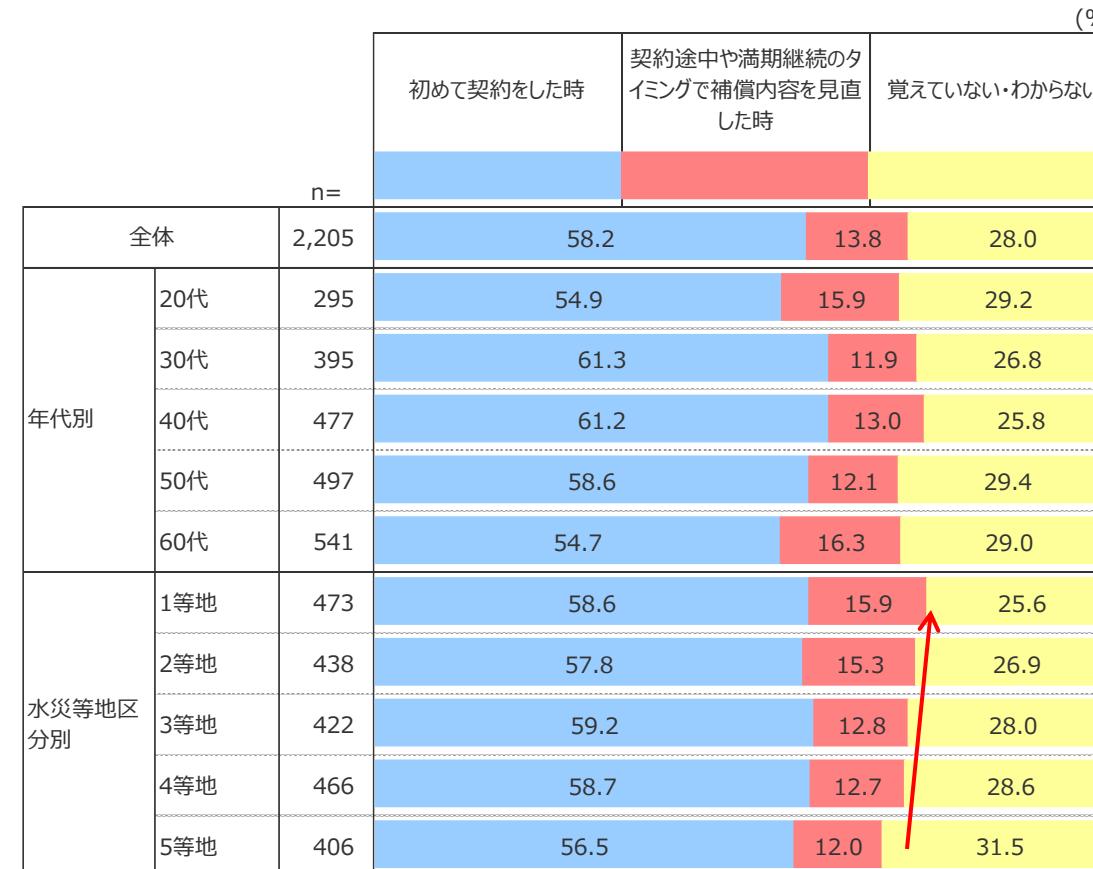


Q13 火災保険を見直すタイミングや新規契約をするタイミングで、今後も「水災補償」を付帯し続けますか？(SA) <水災補償現在付帯者ベース>

5) 水災補償について <非付帯者>

水災補償を外したタイミング

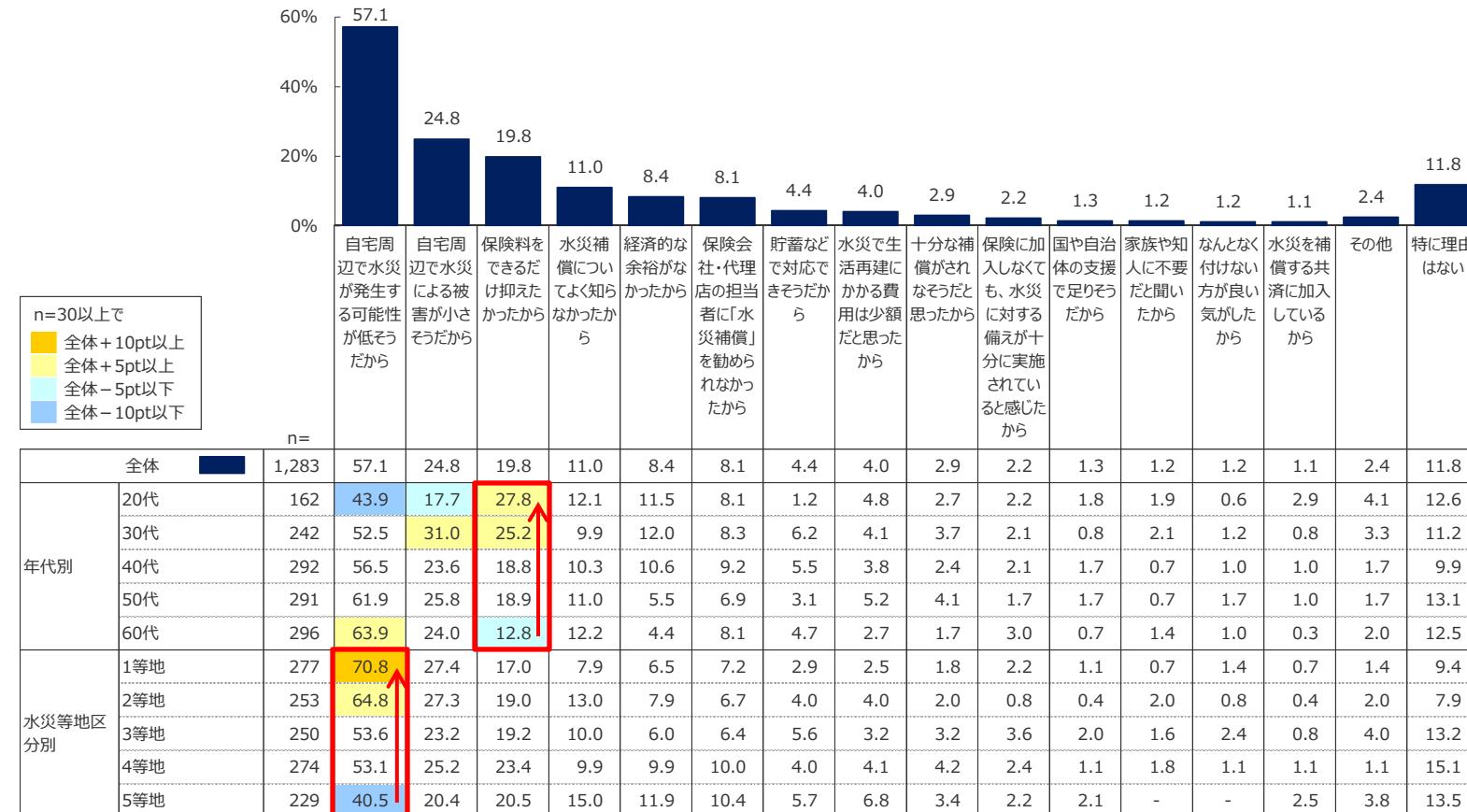
- ✓ 全体では、「初めて契約をした時」が58.2%、「契約途中や満期継続のタイミングで補償内容を見直した時」は13.8%となった。
- ✓ 年代別で「契約途中や満期継続のタイミングで補償内容を見直した時」をみると、『60代』(16.3%) が最も高く、次いで『20代』(15.9%) が高い。
- ✓ 水災等地区別で「契約途中や満期継続のタイミングで補償内容を見直した時」をみると、『1等地』(15.9%) が最も高く、リスク低地域ほど高い。



Q14 現在、「水災補償を付帯していない火災保険」に加入している方に伺います。水災補償なしを選択したタイミングはいつですか？(SA) <水災補償現在非付帯者ベース>

契約当初から、水災補償を付帯していない理由

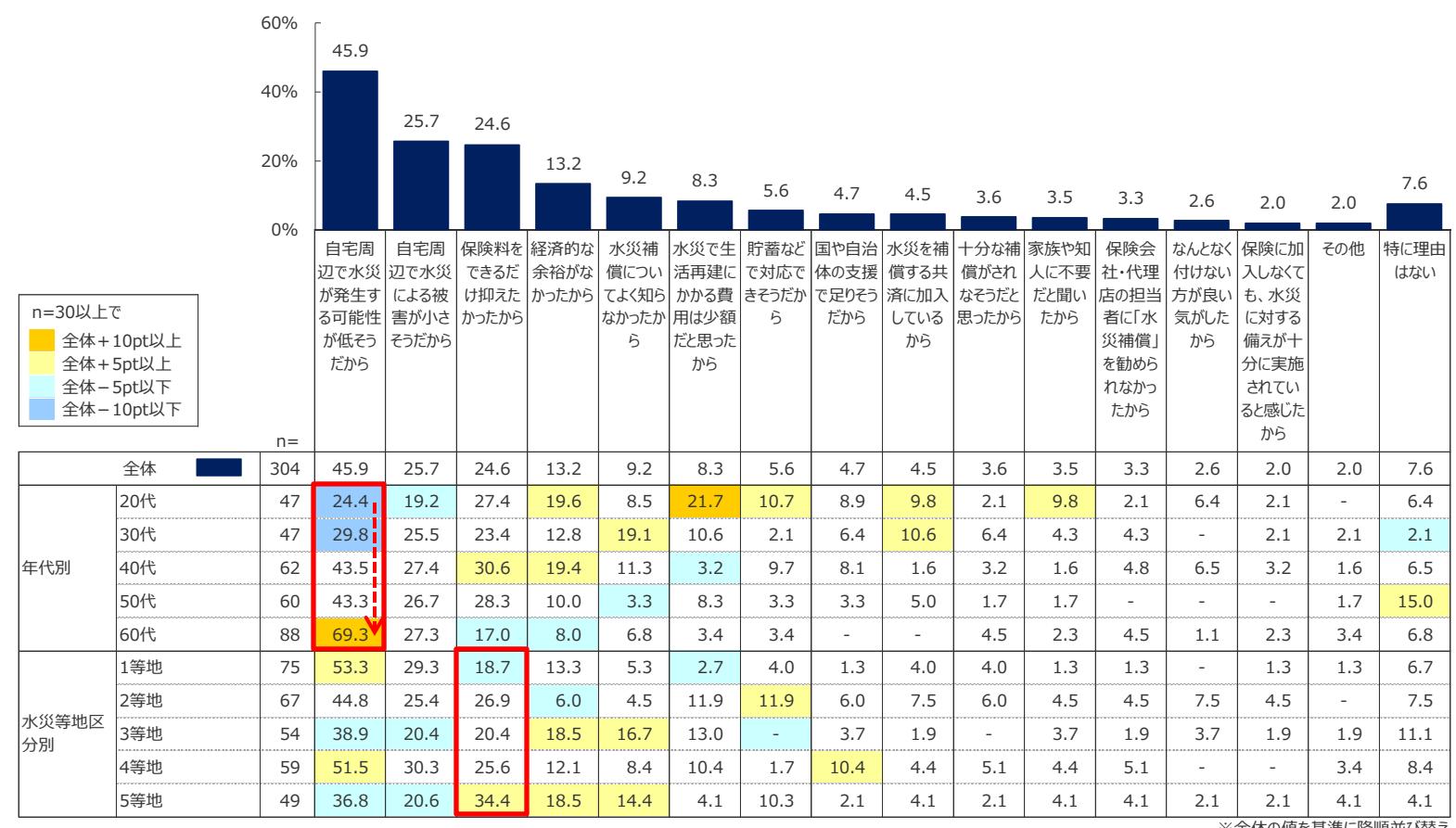
- ✓ 全体では、「自宅周辺で水災が発生する可能性が低そうだから」が57.1%で突出して最も高く、次いで「自宅周辺で水災による被害が小さそうだから」（24.8%）、「保険料をできるだけ抑えたかったから」（19.8%）が高い。
- ✓ 年代別で「保険料をできるだけ抑えたかったから」をみると、『20代』（27.8%）が最も高く、年代が下がるほど高い傾向。
- ✓ 水災等地区別で「自宅周辺で水災が発生する可能性が低そうだから」をみると、『1等地』（70.8%）が最も高く、リスク低地域ほど高い。



Q15_1 火災保険で「水災補償」を付帯していない理由をお答えください。(MA) <契約当初から水災補償を外した方ベース>

契約途中で、水災補償の付帯を外した理由

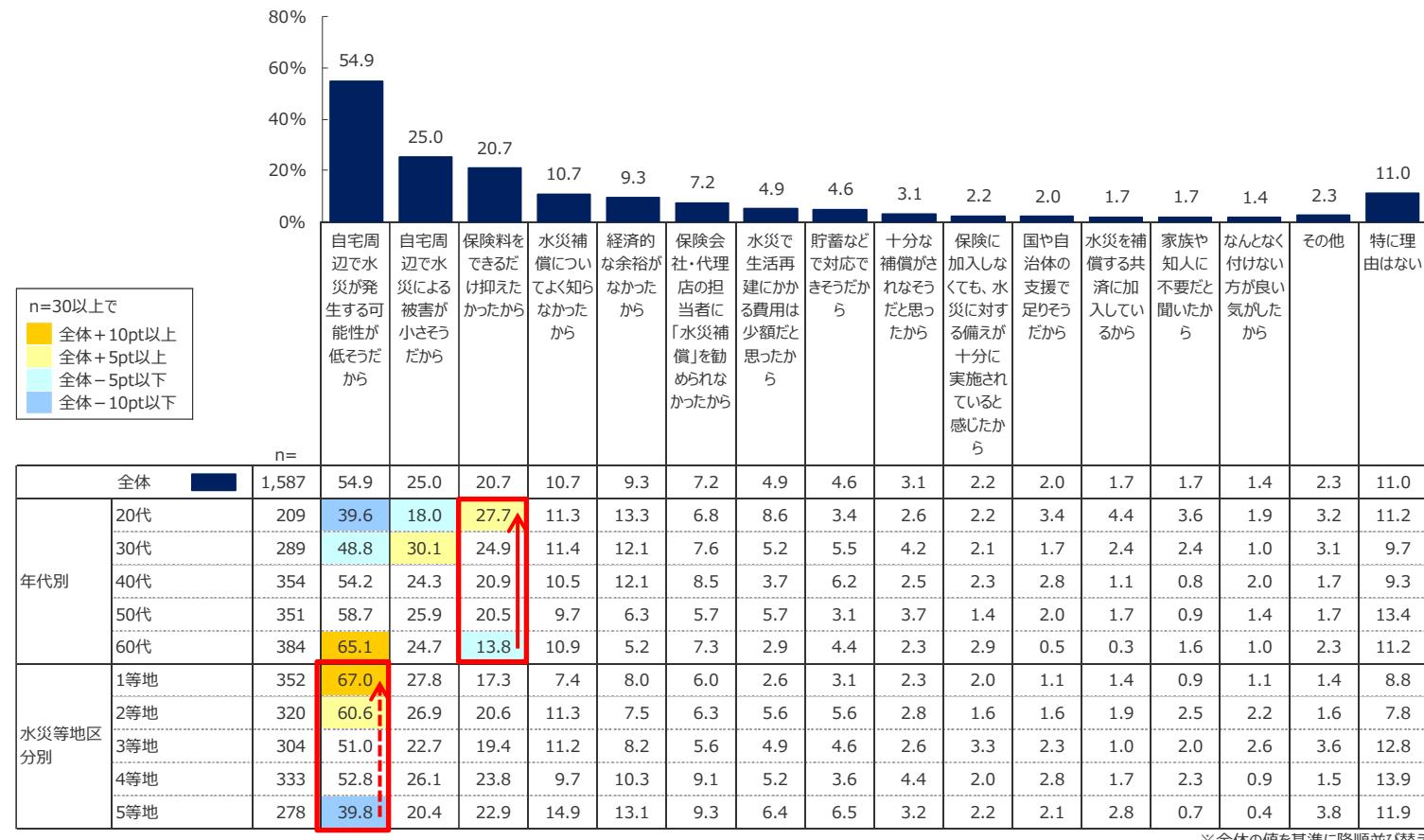
- ✓ 全体では、「自宅周辺で水災が発生する可能性が低そうだから」が45.9%で最も高く、次いで「自宅周辺で水災による被害が小さそうだから」（25.7%）、「保険料をできるだけ抑えたかったから」（24.6%）が高い。契約当初から付帯していない層と比べると、「自宅周辺で水災が発生する可能性が低そうだから」の割合が下がり、「保険料をできるだけ抑えたかったから」の割合が上昇している。
- ✓ 年代別で「自宅周辺で水災が発生する可能性が低そうだから」をみると、『60代』（69.3%）が最も高く、年代が上がるほど高い傾向。
- ✓ 水災等地区別で「保険料をできるだけ抑えたかったから」をみると、『5等地』（34.4%）が最も高く、次いで『2等地』（26.9%）が高い。



Q15_2 「水災補償を付帯していない火災保険」に契約途中で切り替えた理由をお答えください。(MA) <契約途中で水災補償を外した方ベース>

水災補償を付帯していない理由（全体値）

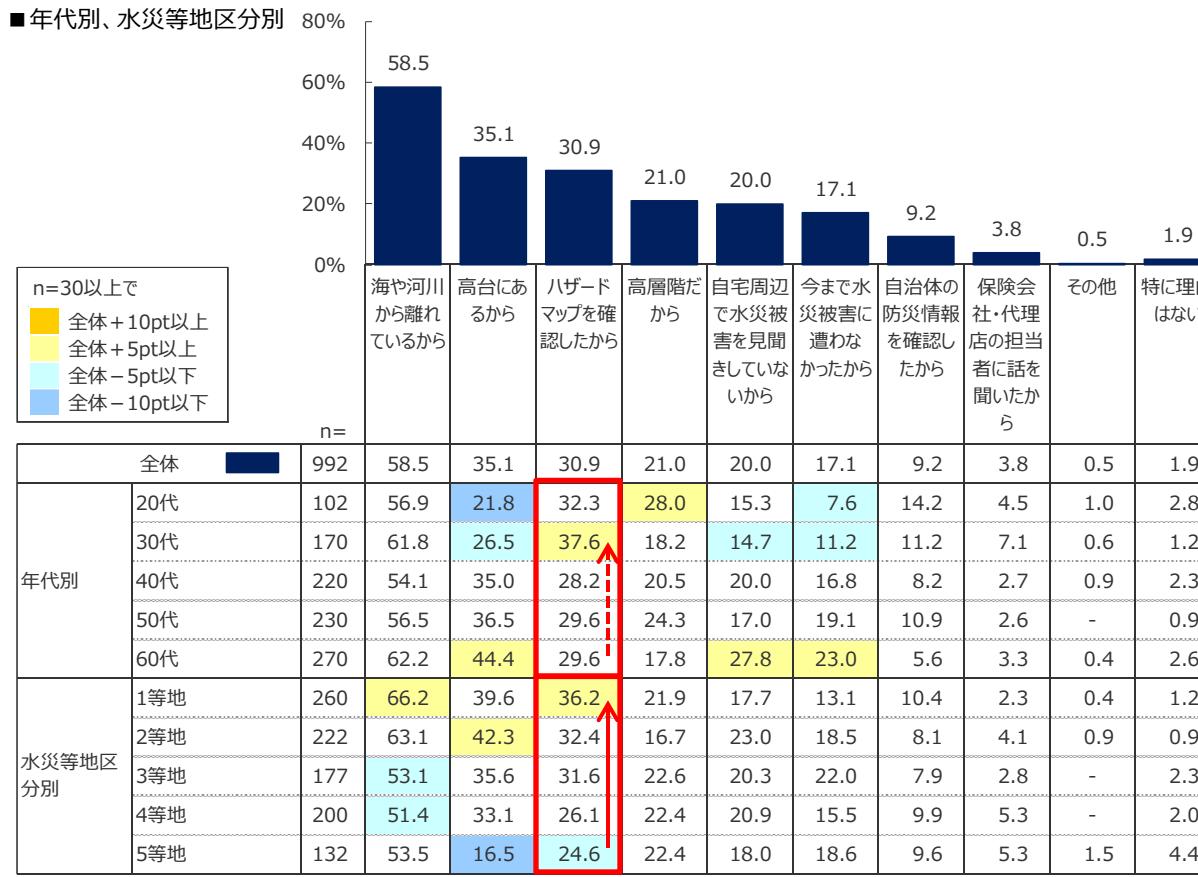
- ✓ 全体では、「自宅周辺で水災が発生する可能性が低そうだから」が54.9%で突出して最も高く、次いで「自宅周辺で水災による被害が小さそうだから」（25.0%）、「保険料をできるだけ抑えたかったから」（20.7%）が高い。
- ✓ 年代別で「保険料をできるだけ抑えたかったから」をみると、『20代』（27.7%）が最も高く、年代が下がるほど高い。
- ✓ 水災等地区別で「自宅周辺で水災が発生する可能性が低そうだから」をみると、『1等地』（67.0%）が最も高く、リスク低地域ほど高い傾向。



Q15_3 火災保険で「水災補償」を付帯していない理由をお答えください。(MA)

水災発生可能性（低）と判断した理由

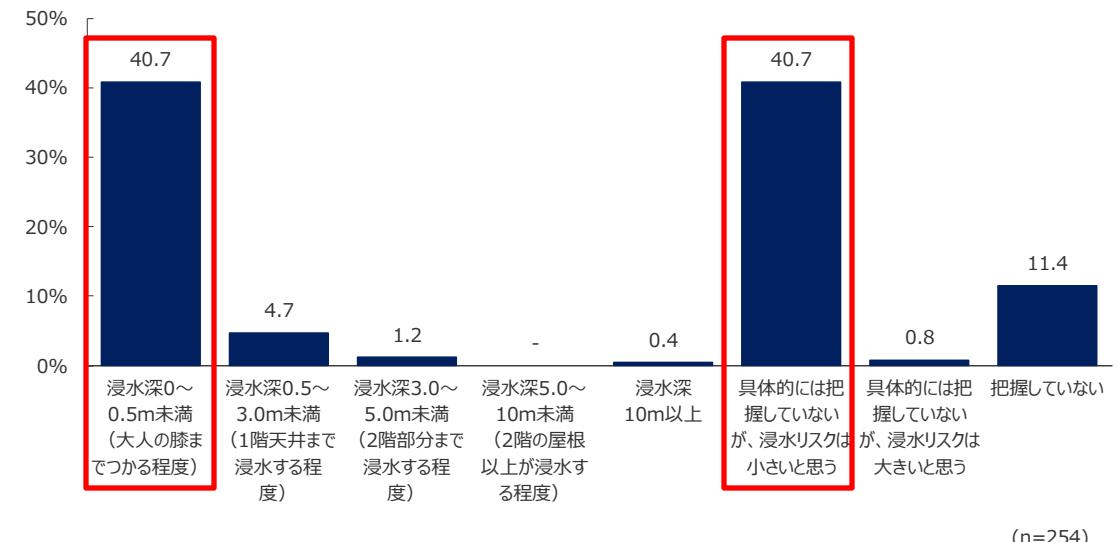
- ✓ 全体では、「海や河川から離れているから」が58.5%で最も高く、次いで「高台にあるから」（35.1%）、「ハザードマップを確認したから」（30.9%）が高い。
- ✓ 年代別で「ハザードマップを確認したから」をみると、『30代』（37.6%）が最も高く、年代が下がるほど高い傾向。
- ✓ 水災当地区別に「ハザードマップを確認したから」をみると、『1等地』（36.2%）が最も高く、リスク低地域ほど高い。
- ✓ 「ハザードマップを確認したから」回答者のうち、ハザードマップの把握内容（Q3）として「浸水深0~0.5m未満」「具体的には把握していないが、浸水リスクは小さいと思う」が40.7%（同率）で最も高い。



※全体の値を基準に降順並び替え

Q16 水災が発生する可能性が低いと判断したのはなぜですか？(MA) <非付帯理由で「自宅周辺で水災が発生する可能性が低そうだから」「自宅周辺で水災による被害が小さそうだから」と回答した方ベース>

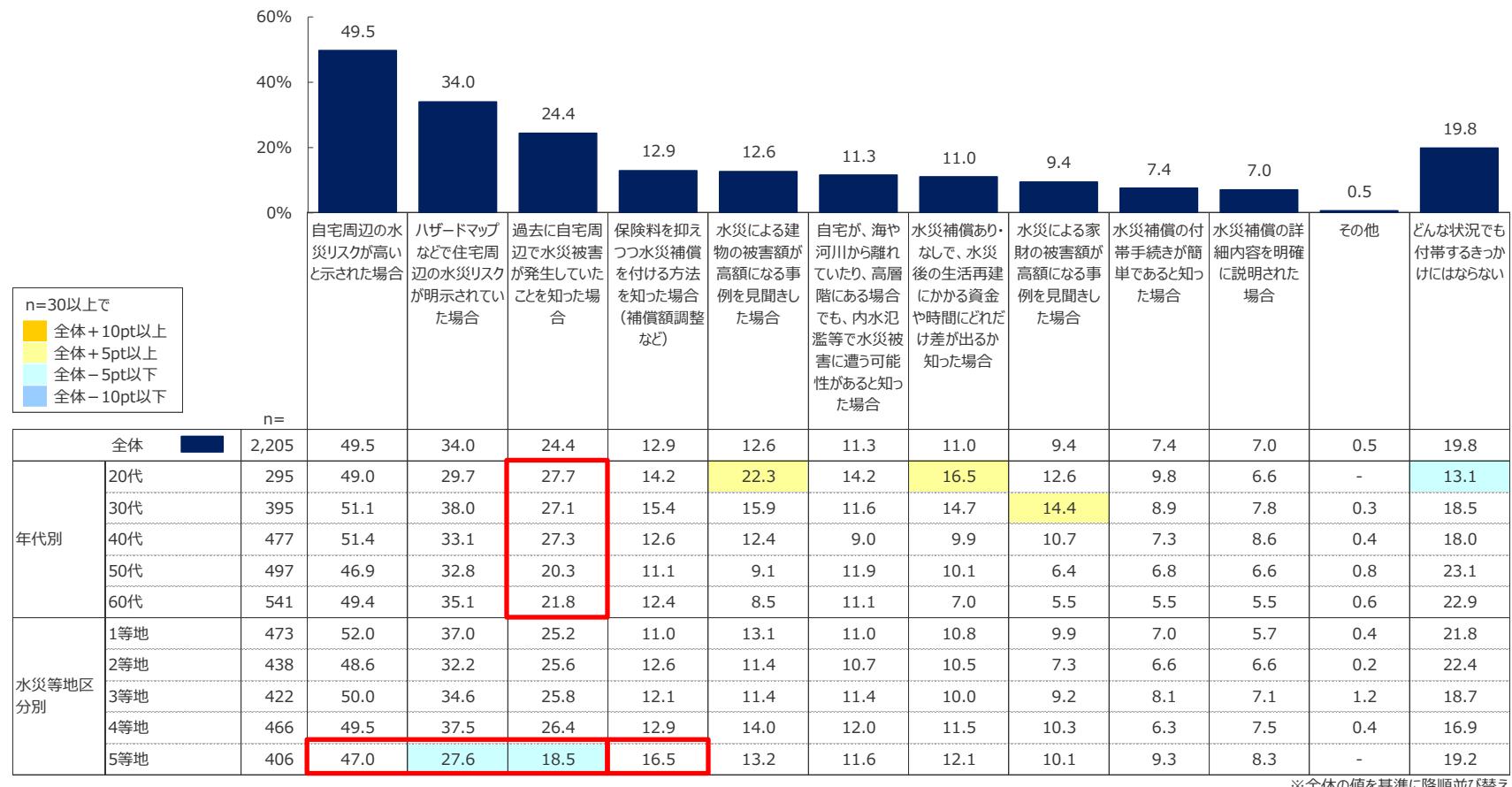
■Q3
ハザードマップでは、ご自宅の水災リスク（浸水深）がどのように示されているか把握していますか。（SA）
<水災リスクへの対策で「ハザードマップ確認」している方 & Q9にて選択肢5「ハザードマップを確認したから」を回答した方ベース>



(n=254)

水災補償を付帯するきっかけになりそうな状況

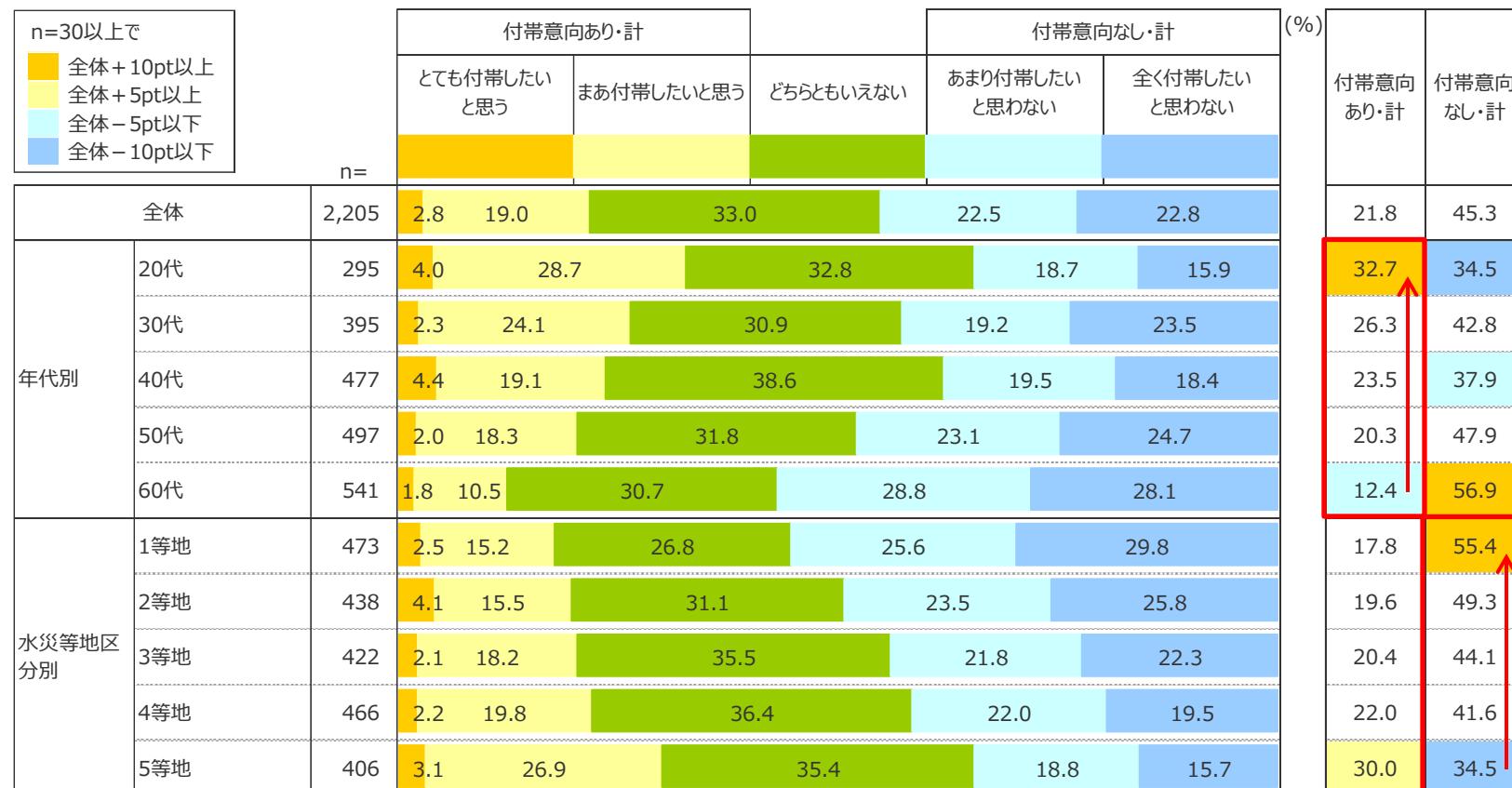
- ✓ 全体では、「自宅周辺の水災リスクが高いと示された場合」が49.5%で最も高く、次いで「ハザードマップなどで住宅周辺の水災リスクが明示されていた場合」(34.0%)、「過去に自宅周辺で水災被害が発生していたことを知った場合」(24.4%)が高い。
- ✓ 年代別で「過去に自宅周辺で水災被害が発生していたことを知った場合」をみると、『20代』(27.7%)が最も高く、高齢層よりも若年層が高い。
- ✓ 水災等地区別で上位3項目をみると、いずれも『5等地』が最も低い。一方で、「保険料を抑えつつ水災補償を付ける方法を知った場合」は『5等地』が最も高い。



Q17 以下のような状況は、水災補償を付帯するきっかけになると思いますか？きっかけになりそうな状況をすべてお答えください。(MA) <水災補償現在非付帯者ベース>

今後の水災補償付帯意向（水災補償非付帯者ベース）

- ✓ 水災補償非付帯者（現在）の全体では、「付帯意向あり・計」が21.8%、「付帯意向なし・計」は45.3%となった。
- ✓ 年代別で「付帯意向あり・計」をみると、『20代』（32.7%）が最も高く、年代が下がるほど高い。
- ✓ 水災等地区別で「付帯意向なし・計」をみると、『1等地』（55.4%）が最も高く、リスク低地域ほど高い。

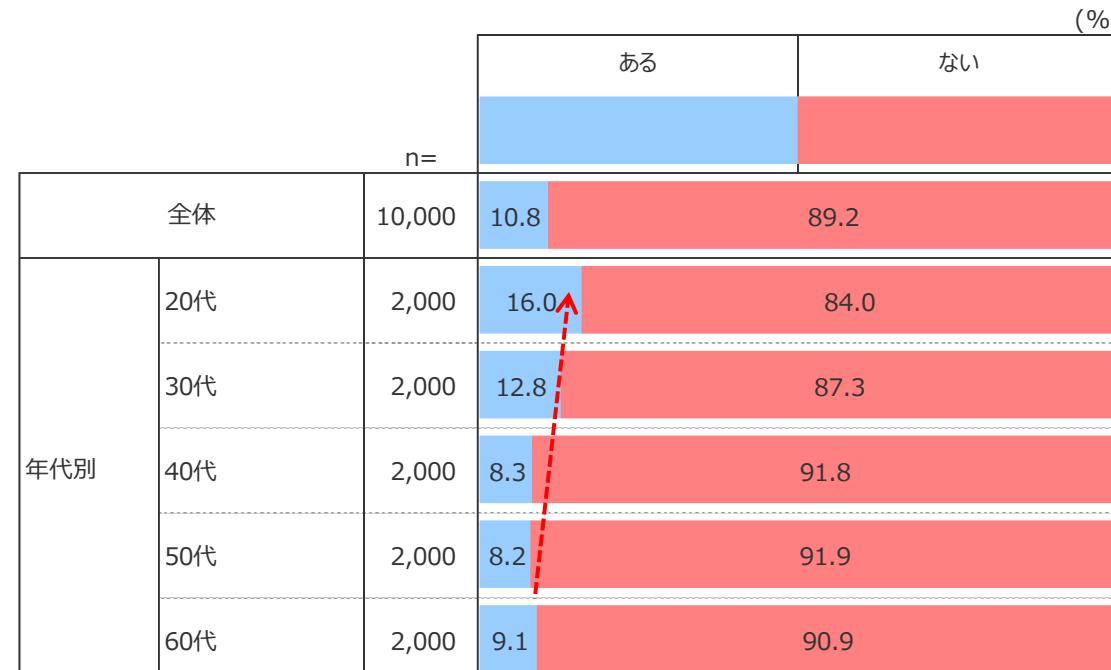


Q18 火災保険を見直すタイミングや新規契約をするタイミングで、今後は「水災補償」を付帯したいと思いますか？(SA) <水災補償現在非付帯者ベース>

6) 水災被害について

水災被害経験

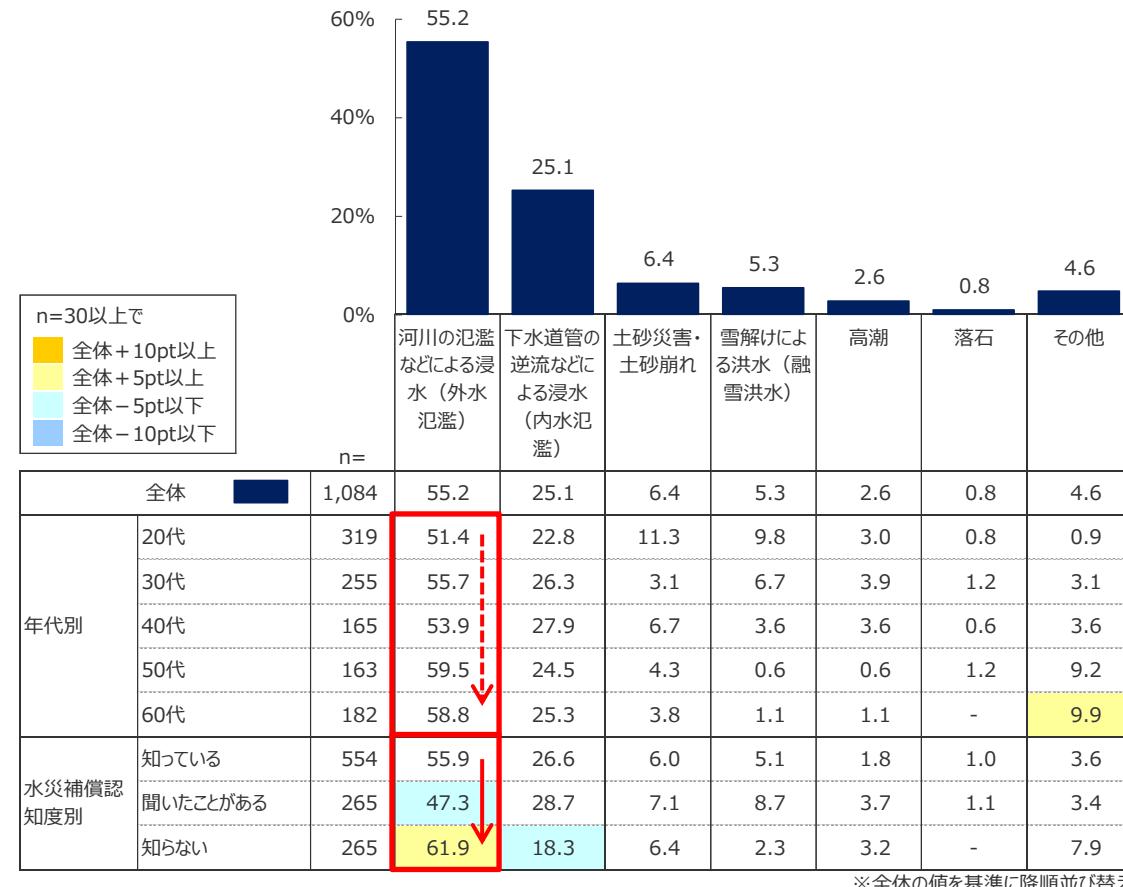
- ✓ 全体では、水災被害経験者は10.8%となった。
- ✓ 年代別で水災被害経験をみると、『20代』(16.0%) が最も高く、『60代』を除くと年代が下がるほど高い傾向。



Q19 あなたは、水災被害にあったことはありますか？(SA)

水災被害内容

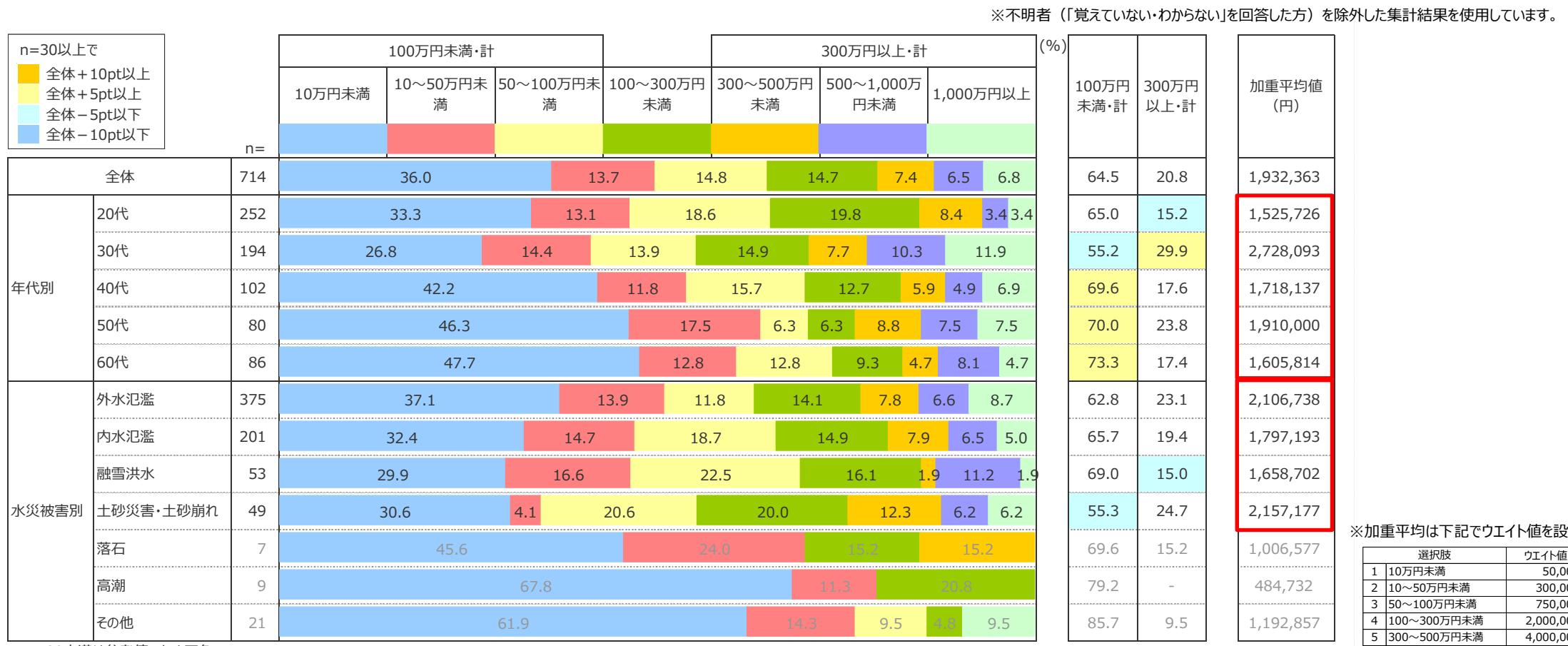
- ✓ 全体では、「外水氾濫」が55.2%で突出して最も高く、次いで「内水氾濫」（25.1%）、「土砂災害・土砂崩れ」（6.4%）が高い。
- ✓ 年代別で「外水氾濫」をみると、『50代』（59.5%）が最も高く、年代が上がるほど高い傾向。
- ✓ 水災被害別で水災補償の認知度をみると、「外水氾濫」被害者は水災補償を『知らない』（61.9%）が最も高い。「内水氾濫」被害者は水災補償を『聞いたことある』（28.7%）が最も高く、次いで『知っている』（26.6%）が高い。



Q20 どのような水災被害に遭われましたか？(SA) <水災被害経験者ベース>

「建物」損害額

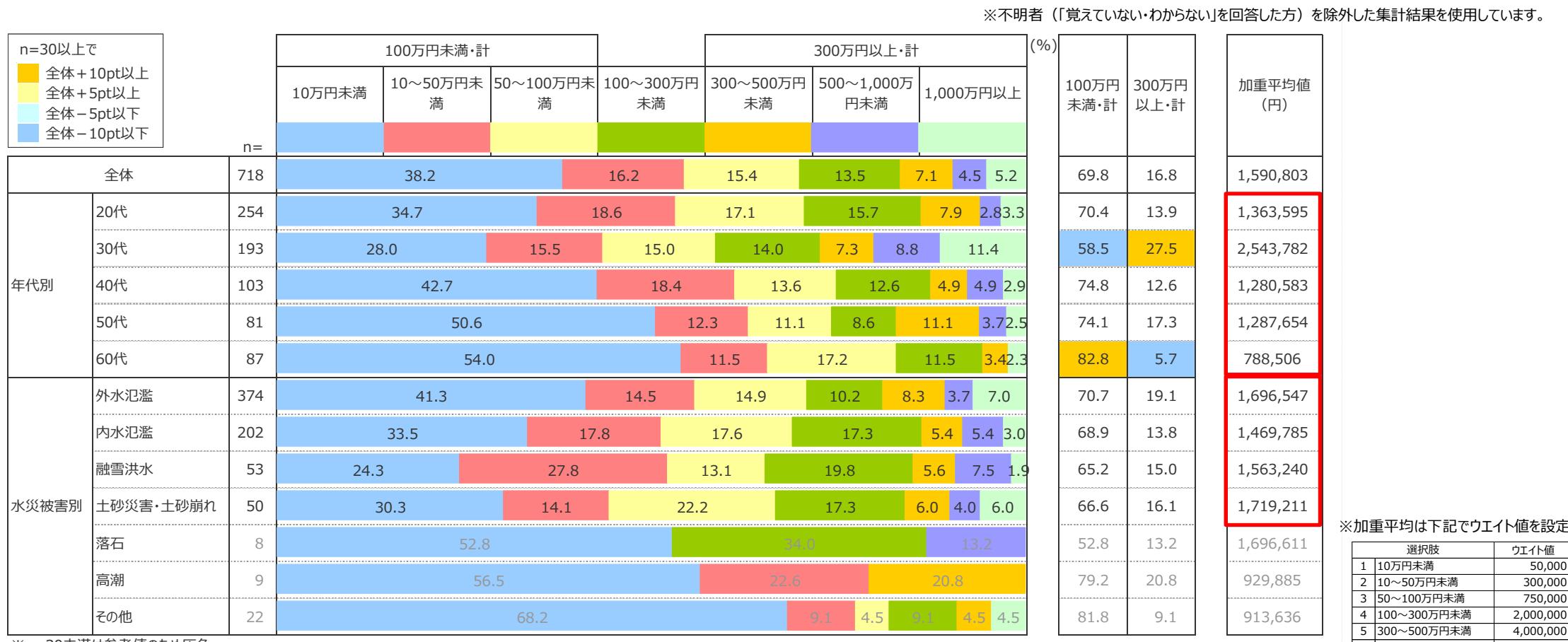
- ✓ 全体では、「100万円未満・計」が64.5%、「300万円以上・計」は20.8%となった。平均は、193万円となった。
- ✓ 年代別で平均をみると、『30代』(273万円) が突出して高い。
- ✓ 水災被害別で平均をみると、『土砂災害・土砂崩れ』(216万円) が最も高く、次いで『外水氾濫』(211万円) が高い。(n=30以上)



Q21_1 水災被害の損害額はいくらでしたか？建物と家財で分けてお答えください。／建物(SA) <水災被害経験者ベース>

「家財」損害額

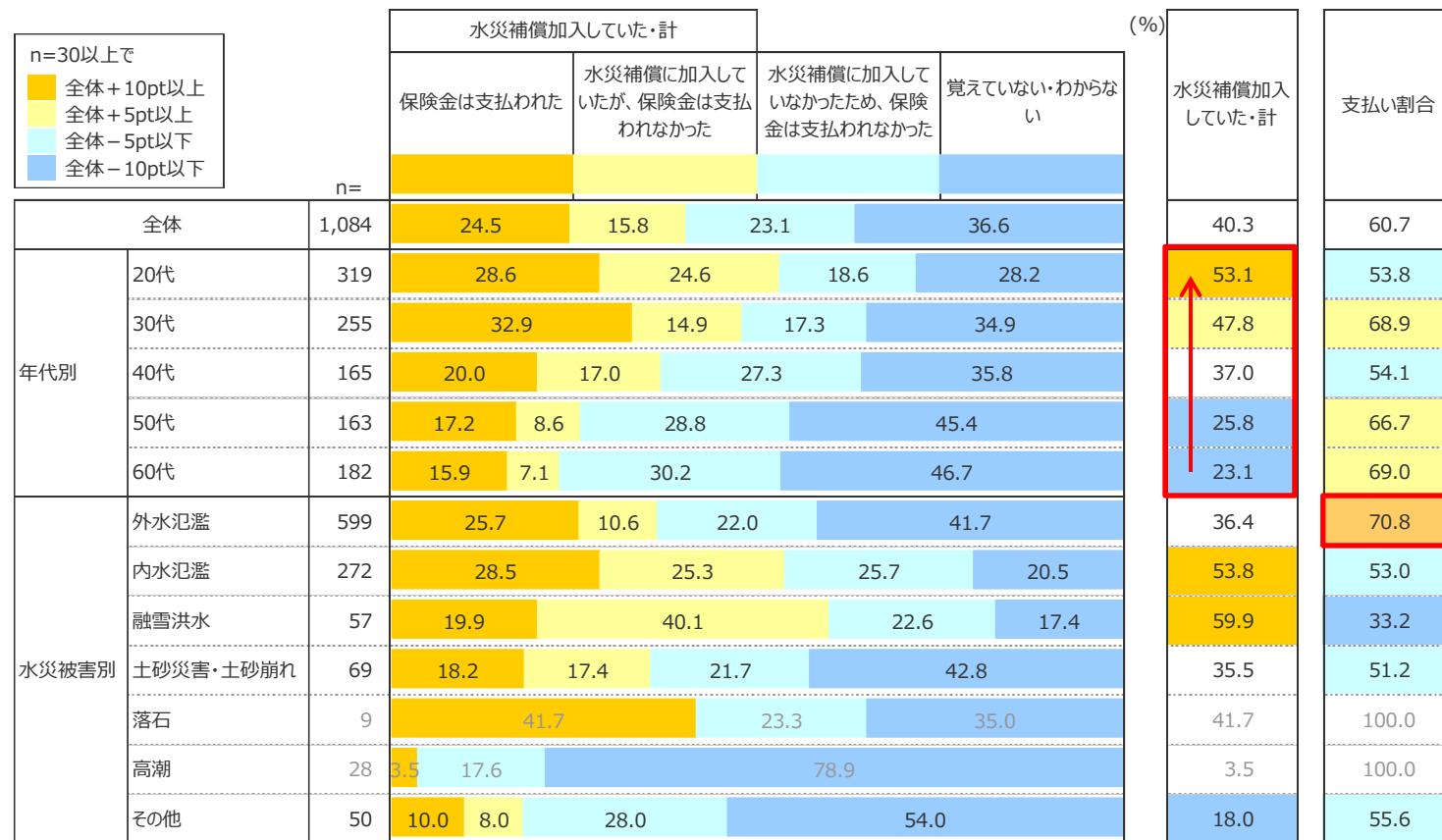
- ✓ 全体では、「100万円未満・計」が69.8%、「300万円以上・計」は16.8%となった。平均は、159万円となった。
- ✓ 年代別で平均をみると、『30代』（254万円）が突出して高い。
- ✓ 水災被害別で平均をみると、『土砂災害・土砂崩れ』（172万円）が最も高く、次いで『外水氾濫』（170万円）が高い。（n=30以上）



Q21_2 水災被害の損害額はいくらでしたか？建物と家財で分けてお答えください。／家財(SA) <水災被害経験者ベース>

保険金の支払い有無

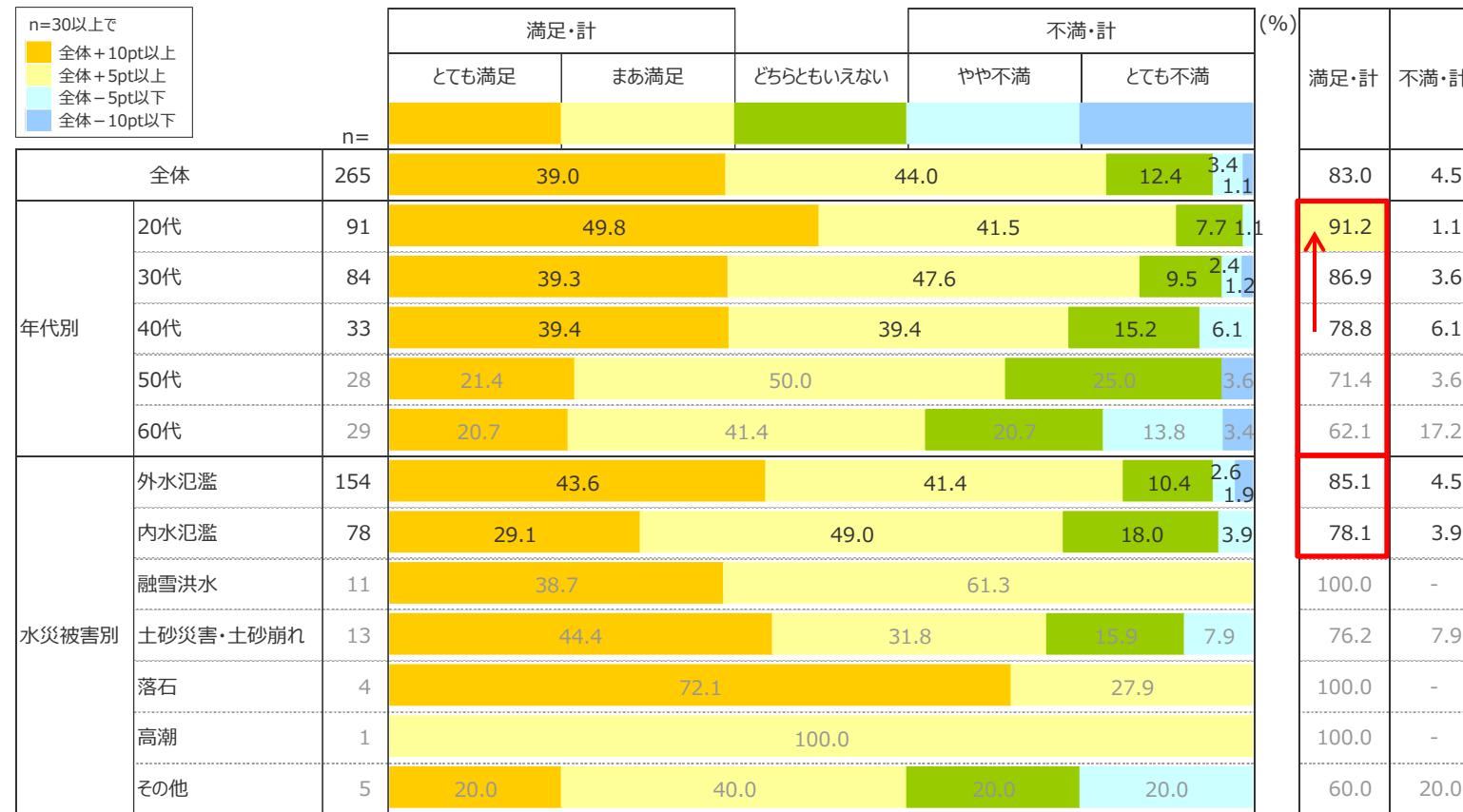
- ✓ 全体では、「保険金は支払われた」が24.5%、「水災補償に加入していたが、保険金は支払われなかった」は15.8%、水災補償未加入（当時）は23.1%となった。
- ✓ 年代別で「水災補償加入していた・計」をみると『20代』(53.1%)が最も高く、年代が下がるほど高い。
- ✓ 水災被害別で「支払い割合」（被害当時に水災補償に加入していた方のうち、保険金が支払われた方）をみると『外水氾濫』(70.8%)が最も高い。(n=30以上)



Q22 水災被害に対して保険金は支払われましたか？(SA) <水災被害経験者ベース>

保険金受領への満足度

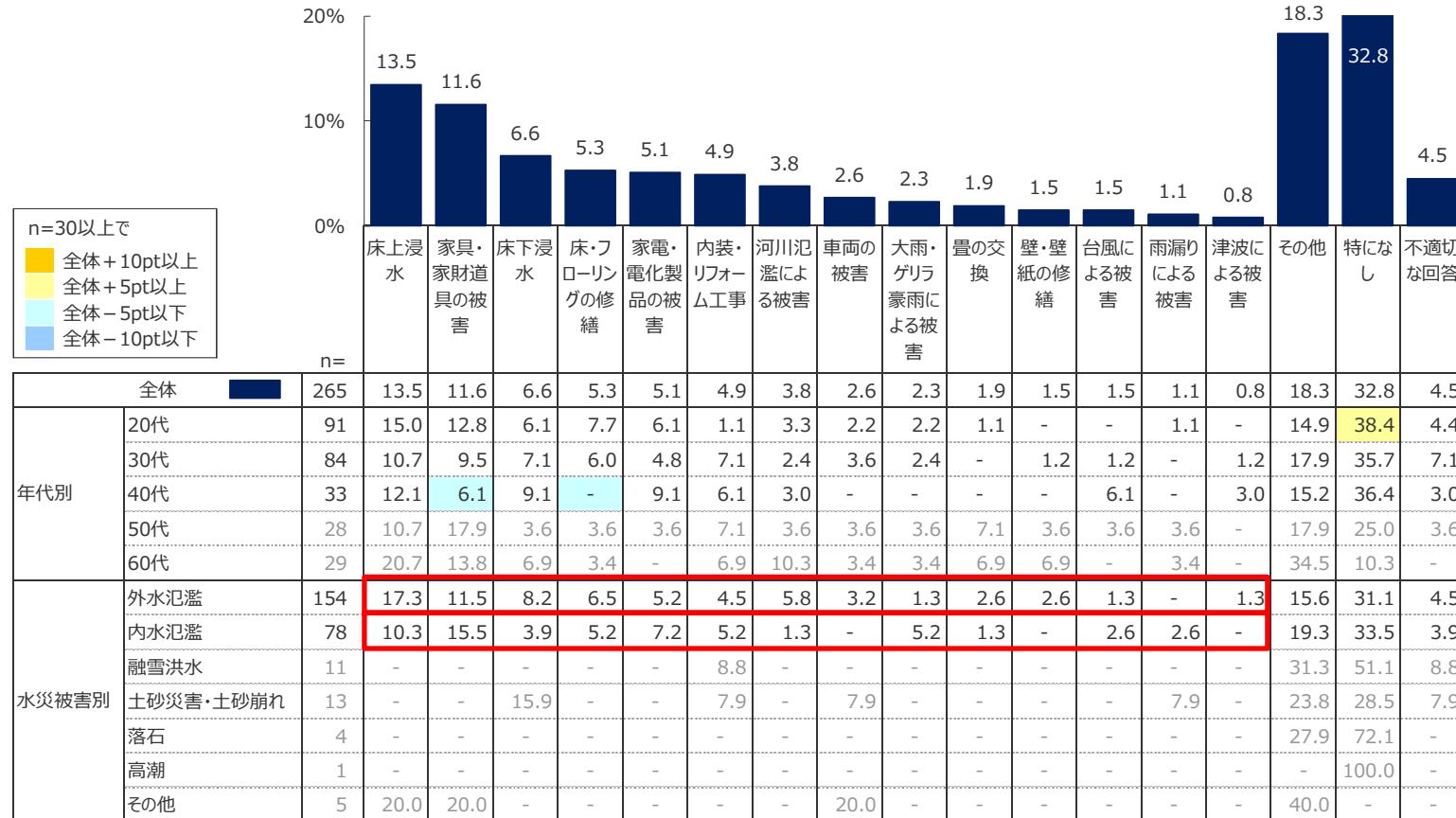
- ✓ 全体では、「満足・計」が83.0%、「不満・計」は4.5%となった。
- ✓ 年代別で「満足・計」をみると、『20代』(91.2%) が最も高く、年代が下がるほど高い。 (n=30以上)
- ✓ 水災被害別で「満足・計」をみると、『外水氾濫』(85.1%) が最も高く、次いで『内水氾濫』(78.1%) が高い。 (n=30以上)



Q23 支払われた保険金への満足度を教えてください。(SA) <保険金受領者ベース>

保険金受領時の詳細内容

- ✓ 全体では、「床上浸水」が13.5%で最も高く、次いで「家具・家財道具の被害」(11.6%)、「床下浸水」(6.6%)が高い。
- ✓ 水災被害別『外水氾濫』では「床上浸水」(17.3%)が最も高く、『内水氾濫』では「家具・家財道具の被害」(15.5%)が最も高い。



※n=30未満は参考値のため灰色。

Q24 保険金で補填ができた水災被害の内容について、可能な限り詳しく教えてください。(FA) <保険金受領者ベース>

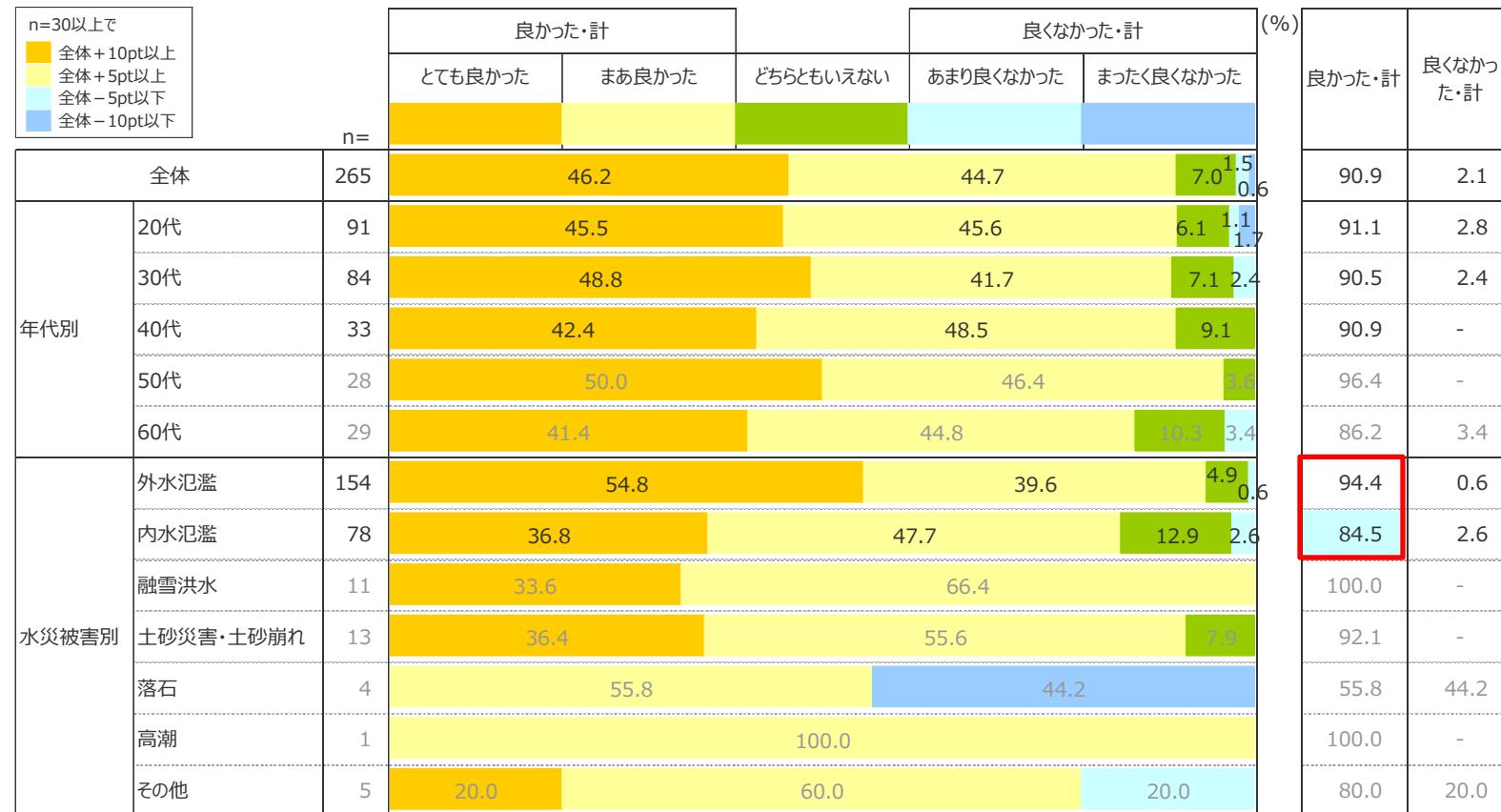
※自由回答の内容を共通性のあるテーマに分類（アフターコーディング）し、
定量的に把握できる形に整理した集計結果です。

【抜粋回答】

- ・床上7cm浸水して、1階の設備（トイレ、お風呂、キッチンなど）がほぼ使えなくなつたが保険金で1階部分は十分なリフォームができた。（50代・女性）
- ・内水氾濫が発生し、床上浸水の被害を受けた。畳や一部の家具が使用不能になり買い替えが必要となった。（50代・男性）
- ・自宅の1階部分の一部が浸水して住居の修理が必要になった。（汚水や不衛生な水だったので専門業者にまず点検をおこなつてもらい、修理部分や交換部分がでた。悪臭防止処理も行ってもらった）。家電製品が水をあびてしまい使用不可になつた。保険対応で新品に交換はできた。（30代・男性）

水災補償付帯の評価

- ✓ 全体では、「良かった・計」が90.9%、「良くなかつた・計」は2.1%となった。
- ✓ 水災被害別で「良かった・計」をみると、『外水氾濫』では94.4%、『内水氾濫』では84.5%となり、比較すると10pt差があった。 (n=30以上)



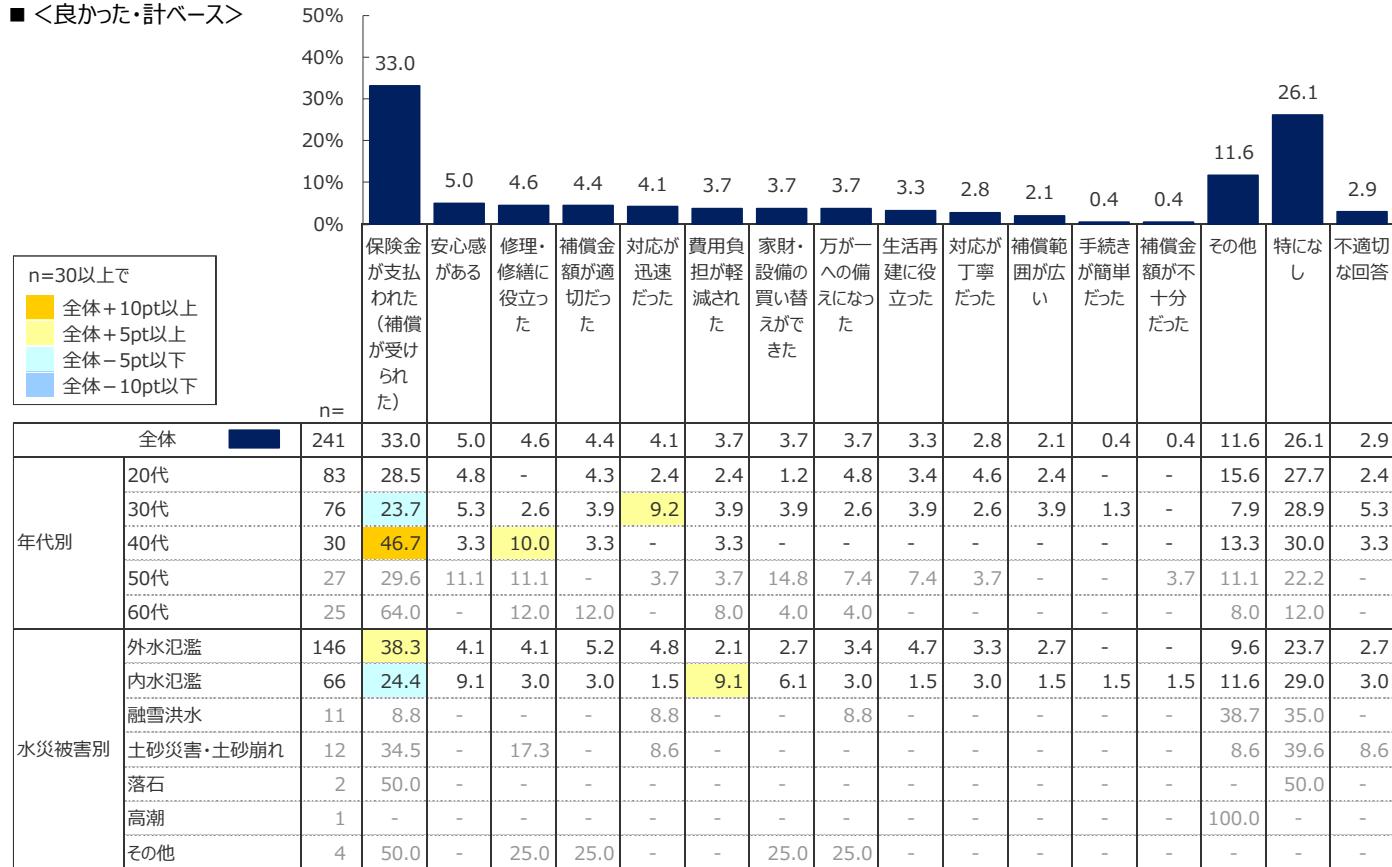
Q25 火災保険に水災補償を付帯していて、良かったと感じますか？(SA) <保険金受領者ベース>

水災補償付帯評価の理由

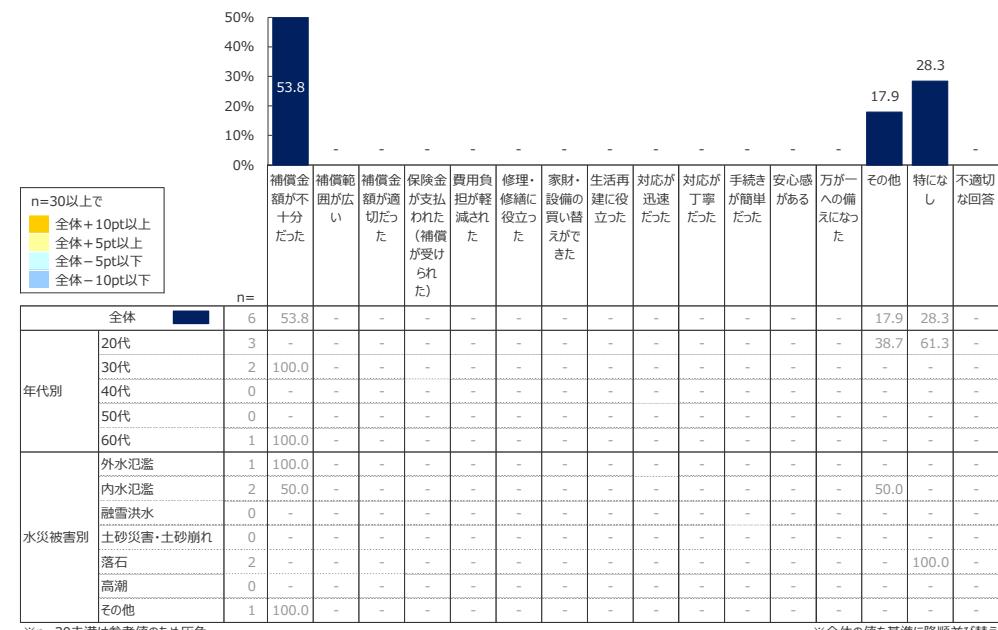
<良かった・計ベース>

- ✓ 全体では、「保険金が支払われた」が33.0%で最も高く、次いで「安心感がある」(5.0%)、「修理・修繕に役立った」(4.6%)と続く。

■ <良かった・計ベース>



■ <良くなかつ・計ベース>

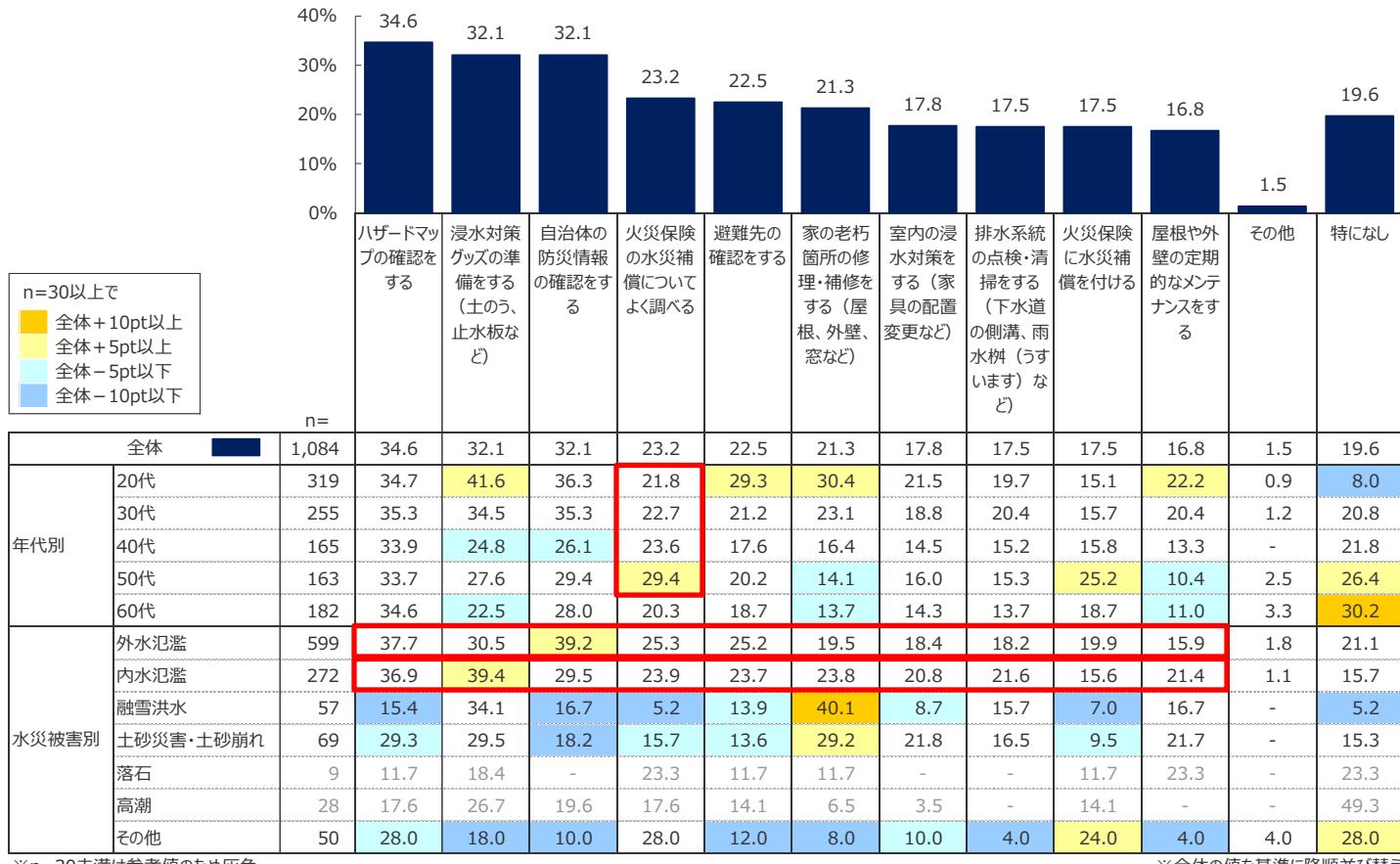


Q26 水災補償を付帯していて【○○○ (q18回答テキスト再掲)】と感じた理由を可能な限り詳しく教えてください。(FA) <保険金受領者ベース>

※自由回答の内容を共通性のあるテーマに分類（アフターコーディング）し、定量的に把握できる形に整理した集計結果です。

水災被害前に戻るとしたら何をするか

- ✓ 全体では、「ハザードマップの確認をする」が34.6%で最も高く、次いで「浸水対策グッズの準備をする」「自治体の防災情報の確認をする」（同率：32.1%）が高い。
- ✓ 年代別で「火災保険の水災補償について良く調べる」をみると、『50代』（29.4%）で最も高く、『60代』を除くと年代が上がるほど高い傾向。
- ✓ 水災被害別でみると、『外水氾濫』被害者は「自治体の防災情報を確認する」（39.2%）が最も高く、『内水氾濫』被害者は「浸水対策グッズの準備をする」（39.4%）が最も高い。



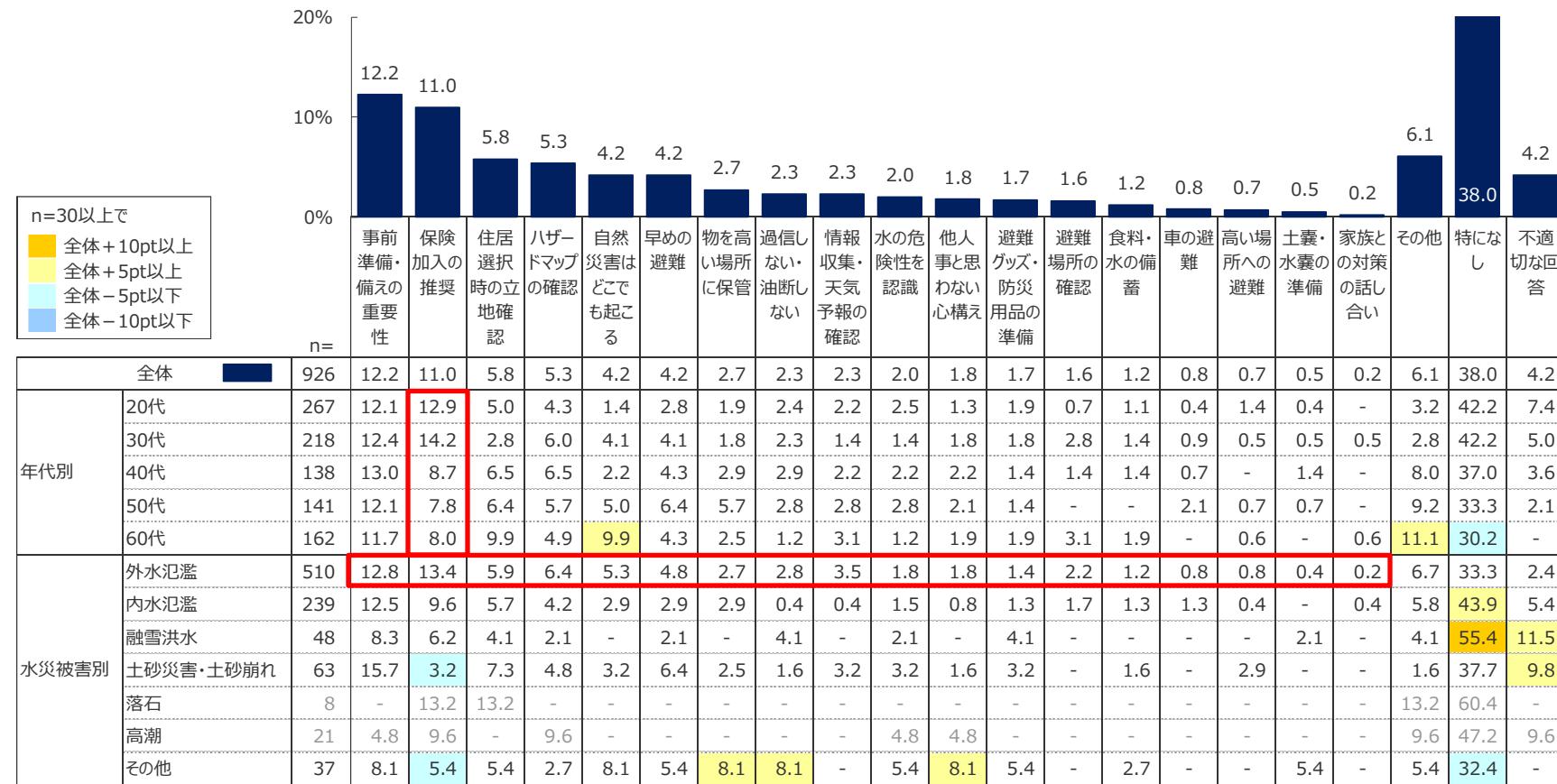
※n=30未満は参考値のため灰色。

※全体の値を基準に降順並び替え

Q27 もしも水災被害前に戻れるとしたらどうしますか？あてはまるものをすべてお答えください。(MA) <水災被害経験者ベース>

水災被害未経験者向けのアドバイス

- ✓ 全体では、「事前準備・備えの重要性」が12.2%で最も高く、次いで「保険加入の推奨」(11.0%)、「住居選択時の立地確認」(5.8%)が高い。
- ✓ 年代別で「保険加入の推奨」をみると、『30代』(14.2%)が最も高く、次いで『20代』(12.9%)が高い。
- ✓ 水災被害別でみると『外水氾濫』は、「保険加入の推奨」(13.4%)が最も高い。



*n=30未満は参考値のため灰色。

*全体の値を基準に降順並び替え

Q28 水災被害を経験したことがない方に、対策のアドバイスをするしたらどんなことを伝えますか？ご自由にお答えください。(FA) <水災被害経験者ベース>

*自由回答の内容を共通性のあるテーマに分類（アフターコーディング）し、定量的に把握できる形に整理した集計結果です。

水災被害未経験者向けのアドバイス (ピックアップ一覧)

※当該水災補償を付帯されていた方を中心に、ピックアップしています。

年代別	水災被害	保険金受領	アドバイス
20代	外水氾濫	保険金は支払われた	保険に入る。常日頃から頭に置いておいて被災にあったときのシミュレーションをしておく。
20代	内水氾濫	保険金は支払われた	備えと避難ルートの確認と自衛の術を学ぶ
30代	内水氾濫	保険金は支払われた	自分たちが思う以上に水災にて住居や家財道具のダメージは大きい。被災後は業者も手一杯なので探すのも大変です、保険会社によっては仲介してくれることがあるので、復活まで時間がかかる。保険に入る事で速めの避難、人命第一の考えにきりかわるので入っておいて悪い事にはならない。
40代	外水氾濫	保険金は支払われた	しっかりと保険には絶対入ったほうがいいが、まずは自分の住んでいる所のハザードマップや水害と雨に対して対策をするべきかなと思う
50代	外水氾濫	保険金は支払われた	自治体が発行している水害ハザードマップを事前に確認して住んでいるところが少しでも水害の可能性があったら保険に加入しておくべき
60代	外水氾濫	保険金は支払われた	ハザードマップと避難所の確認
60代	外水氾濫	保険金は支払われた	日頃からの準備素早い避難
20代	外水氾濫	水災補償に加入していたが、保険金は支払われなかった	保険は確実に。防災グッズも準備すべき
20代	融雪洪水	水災補償に加入していたが、保険金は支払われなかった	水災経験のない方には、まずハザードマップで自宅のリスクを確認し、危険を感じる前に避難できるよう「早めの行動」と、水のうなどで「浸水防止の備え」を整えることをお伝えします。
20代	土砂災害・土砂崩れ	水災補償に加入していたが、保険金は支払われなかった	突然起こるので、事前準備が必要
20代	内水氾濫	水災補償に加入していたが、保険金は支払われなかった	自治体の情報を見て付近の地理的特性について理解する
40代	土砂災害・土砂崩れ	水災補償に加入していたが、保険金は支払われなかった	可能な限り避難すること。
30代	外水氾濫	水災補償に加入していないかったため、保険金は支払われなかった	ハザードマップを見る習慣をつける。災害や防災の対策はやり過ぎ、考え過ぎなくらいでよい。被害がなかった時に無駄だったと考えるのではなく、被害がなくてよかったね、と考えるようにする。
60代	内水氾濫	水災補償に加入していないかったため、保険金は支払われなかった	まずはどのような水災被害があるのかをネットで調べる。大規模（広域）被害ではなく、自分では想定しにくい、小規模な事例を理解すること

Q28 水災被害を経験したことがない方に、対策のアドバイスをするとしたらどんなことを伝えますか？ご自由にお答えください。(FA) <水災被害経験者ベース>